

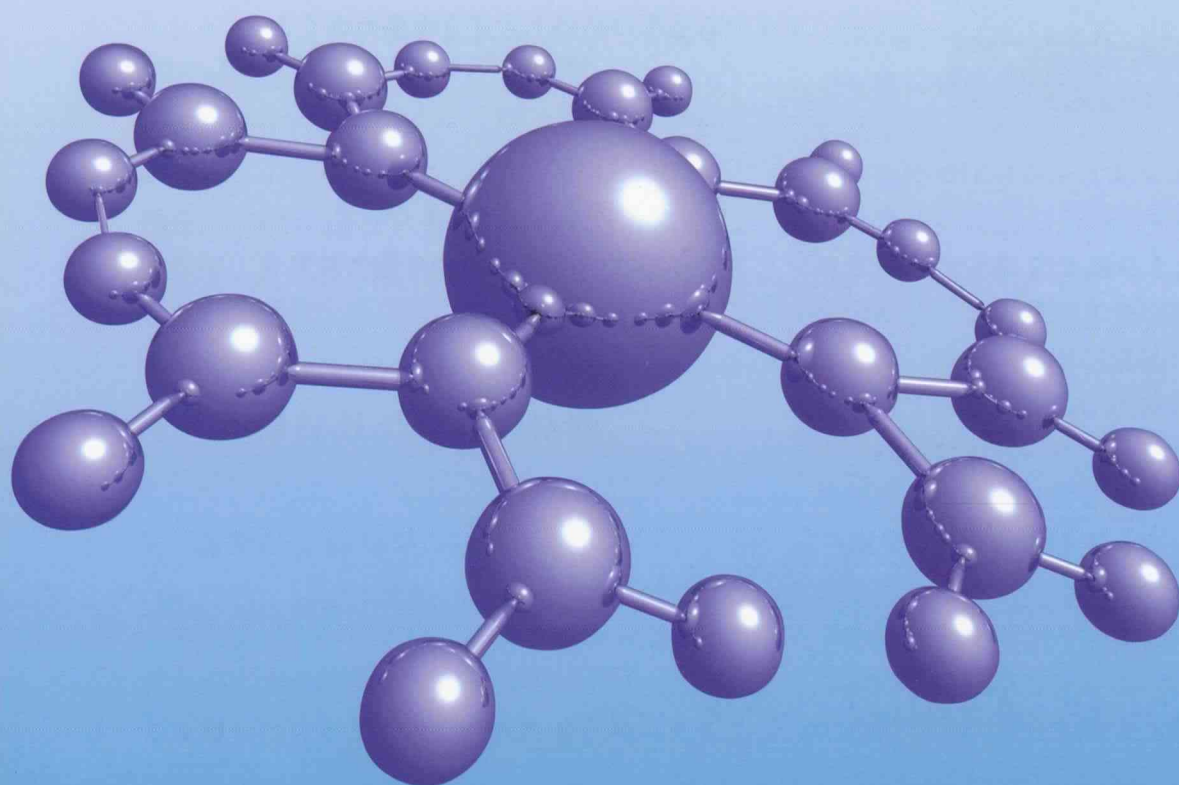
自治研報 かながわ

2006

2

No.92

(通算156号)



◆05年・衆議院選挙を終えて

◆ドイツ総選挙の結果と大連立政権のゆくえ

社団法人 神奈川県地方自治研究センター



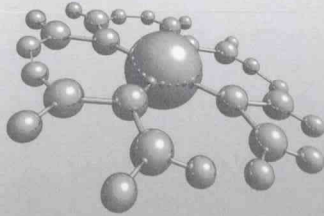
自治研かながわ

2006

2

No.92

(通算156号)



◆ 05年・衆議院選挙を終えて
◆ ドイツ総選挙の結果と大連立政権のゆくえ

法人 神奈川県地方自治研究センター



もくじ***CONTENTS

2005年度自治研センター定例研究会

05年・衆議院選挙を終えて

(社)神奈川県地方自治研究センター 主任研究員 上林 得郎 ……1

I. 選挙結果の全国の特徴 ……	1
II. 神奈川県内の選挙結果の特徴 ……	4
III. 自民党の勝利、民主党惨敗の背景 ……	10
資料 ……	12

2005年度自治研センター定例研究会

ドイツ総選挙の結果と大連立政権のゆくえ

早稲田大学社会科学部 教授 坪郷 實 ……20

05 年・衆議院選挙を終えて

(社)神奈川県地方自治研究センター
主任研究員 上林 得郎

はじめに

9 月 11 日に行われた総選挙では、与党全体で議席の 2/3 を獲得するという結果で、中でも自民党の圧勝だけが目だったかたちで終わった。本報告では、全国的な特徴について概観し、神奈川県の結果を詳細に見てみたい。そして、自民党の勝利の要因について探ってみてみたいと思う。

I 選挙結果の全国の特徴

1. 議席変化の特徴

自民党圧勝の大きなポイントは、小選挙区において 300 議席の内 219 議席 (73%) を獲得し圧勝したことである (表 1)。比例区において

も、過去 2 回の選挙では民主党が自民党を上回っていたが、今回は自民党が民主党を凌駕して 77 議席を獲得した。

衆議院が解散になった直後に、小泉政権は「与党で過半数をとれなければ退陣する」と明言していたが、これは数字的なまやかしかあったのではないかと思う。公示前の勢力 (郵政民営化に反対した議員を除いた勢力) をみると、自民党の 212 議席と公明党の 34 議席を合わせて 246 議席あり、過半数は 241 であるため、現役の議席を確保すれば過半数は難しい話ではないという状況が最初からあったのではないかといえる。それにもかかわらず、野党第一党の民主党党首は、与党が過半数をとれなければ退陣するという言葉につられるように「政権を取れなければ退陣する」という筋の通らないことを公約にし、選挙において惨敗する結果となった。最初に数字を冷静に考えていれば、このようなまやかしにごま

表 1 党派別当選者の内訳 (単位: 人)

出典: 読売新聞 (2005 年 9 月 12 日)

	当選者数	公示前勢力	解散時議席	小選挙区					比例区					復活当選者	北海道	東北	北関東	南関東	東京	北陸信越	東海	近畿	中国	四国	九州
				計	前	元	新	女性	計	前	元	新	女性												
自民	296	212	249	219	174	9	36	14	77	23	7	47	12	48	3	6	9	10	7	5	9	11	5	3	9
民主	113	177	175	52	50	0	2	3	61	46	4	11	4	59	3	5	7	7	6	4	8	9	3	2	7
公明	31	34	34	8	8	0	0	0	23	21	0	2	4	0	1	1	2	3	2	1	3	4	2	1	3
産党	9	9	9	0	0	0	0	0	9	8	0	1	2	4	0	1	1	1	1	0	1	3	0	0	1
社民	7	5	6	1	1	0	0	0	6	1	5	0	2	4	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1
国民新党	4	4	-	2	2	0	0	0	2	1	0	1	0	1	-	0	-	-	-	1	-	-	1	-	0
新党日本	1	3	-	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	-	-	0	0	0	-	0	1	-	-	-
自由連合	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
諸派	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無所属	18	32	3	18	14	3	1	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	480	477	477	300	249	12	39	19	180	101	17	62	24	117	8	14	20	22	17	11	21	29	11	6	21

欠員3

表2 小選挙区・比例区、都道府県別当選者数の比較(主要政党)

単位：人

	定数		自民党			民主党			公明党			共産党			社民党			無所属		
	小選挙区	比例区	03年	05年	増減	03年	05年	増減	03年	05年	増減	03年	05年	増減	03年	05年	増減	03年	05年	増減
北海道	12		5	4	-1	7	8	1												
北海道比		8	3	3	0	4	3	-1	1	1	0			0			0			0
青森	4		4	4	0			0												0
岩手	4		1	1	0	3	3	0												0
宮城	6		3	5	2	3	1	-2												0
秋田	3		1	1	0	1	1	0										1	1	0
山形	3		2	3	1			0										1	1	-1
福島	5		3	3	0	1	2	1												0
東北	25		14	17	3	8	7	-1										2	1	-1
東北比		14	6	6	0	5	5	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0			0
茨城	7		6	5	-1	1	1	0											1	1
栃木	5		5	5	0			0												0
群馬	5		5	5	0			0												0
埼玉	15		7	12	5	8	3	-5												0
北関東	32		23	27	4	9	4	-5											1	1
北関東比		20	8	9	1	8	7	-1	3	2	-1	1	1	0		1	1			0
千葉	13		5	12	7	8	1	-7												0
神奈川	18		9	16	7	8	0	-8	1	1									1	1
山梨	3		2		-2	1	1	0											2	2
南関東	34		16	28	12	17	2	-15	1	1									3	3
南関東比		22	8	10	2	9	7	-2	3	3	0	1	1	0	1	1	0			0
東京	25		12	23	11	12	1	-11	1	1	0			0			0			0
東京比		17	6	7	1	8	6	-2	2	2	0	1	1	0		1	1			0
新潟	6		2	2	0	3	3	0											1	1
富山	3		3	2	-1			0												0
石川	3		2	3	1	1		-1												0
福井	3		3	3	0			0												0
長野	5		3	3	0	2	2	0												0
北陸信越	20		13	13	0	6	5	-1											1	1
北陸信越比		11	5	5	0	5	4	-1	1	1	0			0			0			0
岐阜	5		5	3	-2			0											2	2
静岡	8		4	6	2	3	2	-1											1	-1
愛知	15		3	9	6	10	6	-4												0
三重	5		3	3	0	2	2	0												0
東海	33		15	21	6	15	10	-5											1	2
東海比		21	8	9	1	9	8	-1	3	3	0	1	1	0			0			0
滋賀	4		1	2	1	3	2	-1												0
京都	6		3	3	0	3	3	0												0
大阪	19		6	13	7	9	2	-7	4	4										0
兵庫	12		5	10	5	3		-3	2	2									1	-1
奈良	4		2	3	1	2	1	-1												0
和歌山	3		2	3	1			0												0
近畿	48		19	34	15	20	8	-12	6	6									1	-1
近畿比		29	9	11	2	11	9	-2	5	4	-1	3	3	0	1	1	0			0
鳥取	2		1	2	1			0											1	-1
島根	2		2	2	0			0												0
岡山	5		5	2	-3		2	2											1	1
広島	7		6	6	0	1		-1												0
山口	4		3	4	1	1		-1												0
中国	20		17	16	-1	2	2	0											1	1
中国比		11	5	5	0	4	3	-1	2	2	0			0			0			0
徳島	3		2	1	-1	1	1													1
香川	3		3	3	0			0												0
愛媛	4		4	4	0			0												0
高知	3		3	3	0			0												0
四国	13		12	11	-1	1	1												1	1
四国比		6	3	3	0	2	2	0	1	1	0			0			0			0
福岡	11		5	9	4	5	1	-4											1	1
佐賀	3		2	1	-1	1		-1											2	2
長崎	4		3	3	0	1	1	0												0
熊本	5		3	4	1	1	1	0											1	-1
大分	3		2	2	0		1	1											1	-1
宮崎	3		1	1	0			0											2	2
鹿児島	5		4	3	-1			0												2
沖縄	4		2	2	0			0	1		-1			0	1		-1		1	1
九州	38		22	25	3	8	4	-4	1		-1	0		0	1	1	0	5	8	3
九州比		21	8	9	1	7	7	0	3	3	0	1	1	0	2	1	-1			0
合計小	300		168	219	51	105	52	-53	9	8	-1	0	0	0	1	1	0	11	18	7
合計比		180	69	77	8	72	61	-11	25	23	-2	9	9	0	5	6	1	0	0	0
合計	300	180	237	296	59	177	113	-64	34	31	-3	9	9	0	6	7	1	11	18	7

(注)主な政党のみ、新党を除いてある

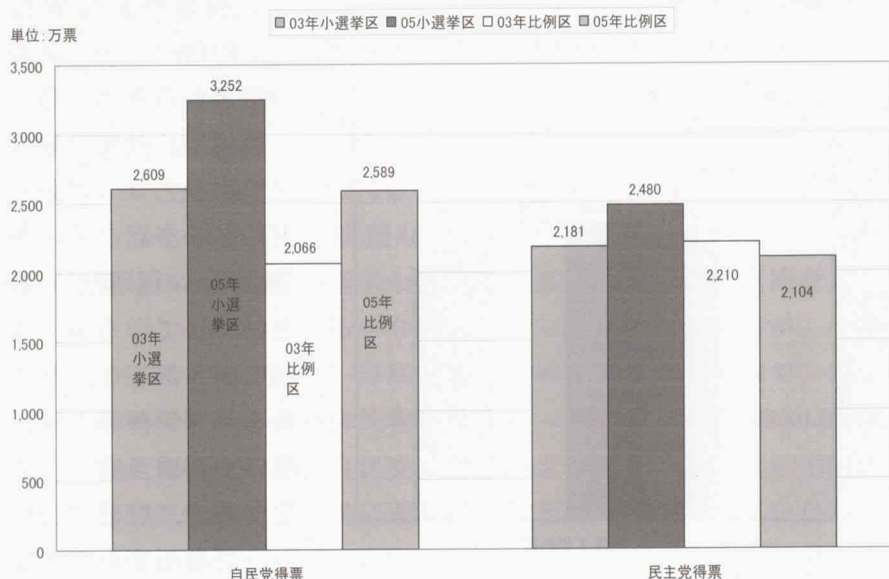
かされなかったのではないか。

民主党が惨敗した中でも、小選挙区で 53 議席も減らし 52 議席になったことが特徴的である。この減り方が特徴的であり、東京都で 11 議席、神奈川県 8 議席、千葉県 7 議席、埼玉県 5 議席など首都圏で 31 議席（減少した議席の約 6 割）を減らし、愛知県は 4 議席、大阪府 7 議席、兵庫県 3 議席などの近畿圏で 12 議席、福岡県で 4 議席減らすという都市部において減少幅が大きい(表 2)。また、比例区でも 11 議席を減らしている。

2. 得票数の変化の特徴

自民党の小選挙区得票数は前回と比べてかなりの増加を見せている。全国で投票率が 7.6% 上がって投票者総数が伸びたことがポイントの一つであり、前は 5950 万人が投票しているが、今回は 6800 万人と有効投票数が 850 万人増加しており、この増加分の多くを自民党が獲得している。小選挙区では、前は 2609 万票に対して今回は 3252 万票であり、約 650 万票増やしており、増加した投票総数の 850 万のほぼ 4 分の 3 を自民党が獲得していることになる(図 1)。

図 1 全国得票数の比較(03、05 年)



民主党は、小選挙区では前は全選挙区に候補者を立てきれなかったため、得票数はかなり低かったが、今回は多くの選挙区に候補者を立てることができたため、得票数は約 300 万票増加した。しかし、得票率でいうと、自民党が 47.8% に対して民主党が 36.4% であり、1 票でも得票が多かった候補者が当選するという小選挙区制の仕組みに特性があり、これが議席数に影響したといえる。議席の配分は自民党 219 議席（議席の占有率 73%）、民主党 52 議席（同 17.3%）となり、小選挙区制がもつダイナミックな変化が明確に表れたといえる。

比例区でも、自民党は約 520 万票増加して 2588 万票を獲得し、民主党が約 100 万票減らし 2100 万票と前回との順位が逆転している。ドント方式による議席配分は得票率の多かった政党にやや有利になるという特性があり、自民党に有利な結果となっている。具体的には、自民党の得票率は 38.2% で議席は 77 議席（議席占有率 42.8%）、民主党は得票率 31.0% で 61 議席（同 33.9%）となっている。公明党は得票率 13.3% で 23 議席（同 12.8%）、共産党は得票率 7.3% で 9 議席（同 5%）、社民党は得票率 5.5% で 6 議席（3.3%）

となっている。比例代表が全国 11 ブロックに別れて選出されることになっているため、得票率の少ない政党にさらに不利になっている。

民主党は都市部を中心に敗北を続けたが、九州、四国、中国などの地方ではかなり健闘したといえ、その結果として 64 議席減少したが 113 議席でとどま

ったという言い方もある。このように、地域によって差がみられる。その他の政党では、公明党が3議席減の31議席、共産党は9議席の維持、社民党が2議席増(このうち1議席は東京比例区で自民党の候補者名簿が足りなくなったため、次点の社民党にふり返られたものである)という結果となった。また、自民党から公認されず新党をつくったグループでは、国民新党で4議席、日本新党が1議席を獲得、非公認で無所属で立候補した人は17議席となった。

このように、全国的な状況を見ると、投票率の上がったところで民主党の議席が減っていることが特徴である。

II 神奈川県内の選挙結果の特徴

1. 選挙結果の特徴

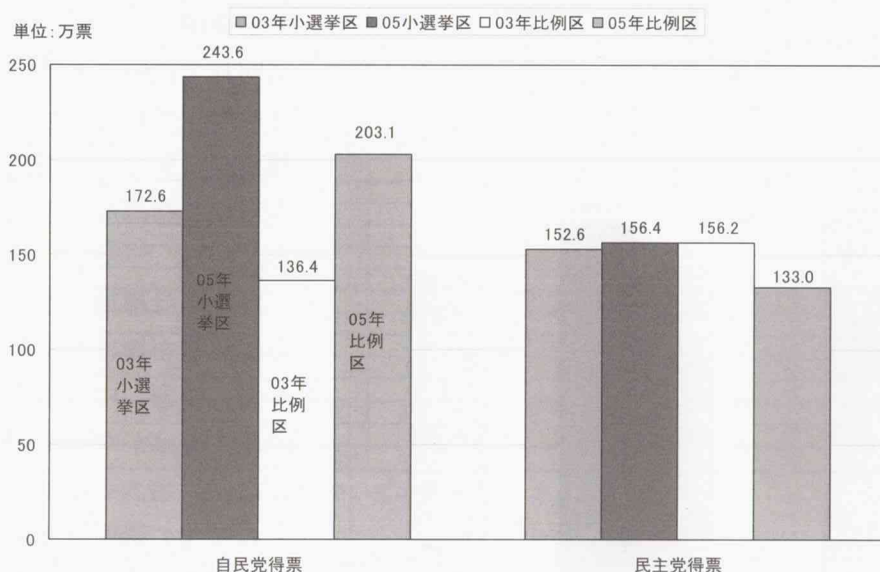
神奈川県では小選挙区において自民党が16議席を獲得し、前回の9議席から初の2桁を獲得、さらに大きく上まわった。公明党も神奈川6区で議席を守り、神奈川8区では無所属の江田氏が当選した。民主党は全敗し、

比例で復活した2議席のみとなり、前回の小選挙区8議席、比例区で復活5議席復活の13議席から大幅に11議席を減らした。

投票率は、前回の57.8%から67.1%と9.7%(約73万票)も上昇し、その上昇分を自民党(約71万票)が獲得した。比例区についても自民党は66万票を増やし、南関東ブロックの得票増加と2議席を拡大するのに大きく貢献した。一方民主党は、比例区では23万票の大幅減であったため、南関東での議席を2議席減らした。比例区を政党別にみると、自民党が66万票増、民主党が23万票減、公明党が2.5万票増、共産党が3万票増、社民党が7.7万票増であるが、全体的には数が相対的に低いため大きな影響は与えていない。

民主党の結果を細かく見ると、神奈川5区の田中氏(党県連代表)、神奈川14区の藤井氏(党本部代表代行)などベテラン議員の落選が目立った。また、比例で復活する議員が少ないことが特徴である。これは、惜敗率(当選者の得票数との割合)で70%以上は5人しかおらず、惜敗率で7割未満で敗れた候補が多かったことが影響しており、いかに大差で負けたかが分かる。

図2 県内得票数の比較(03、05年)



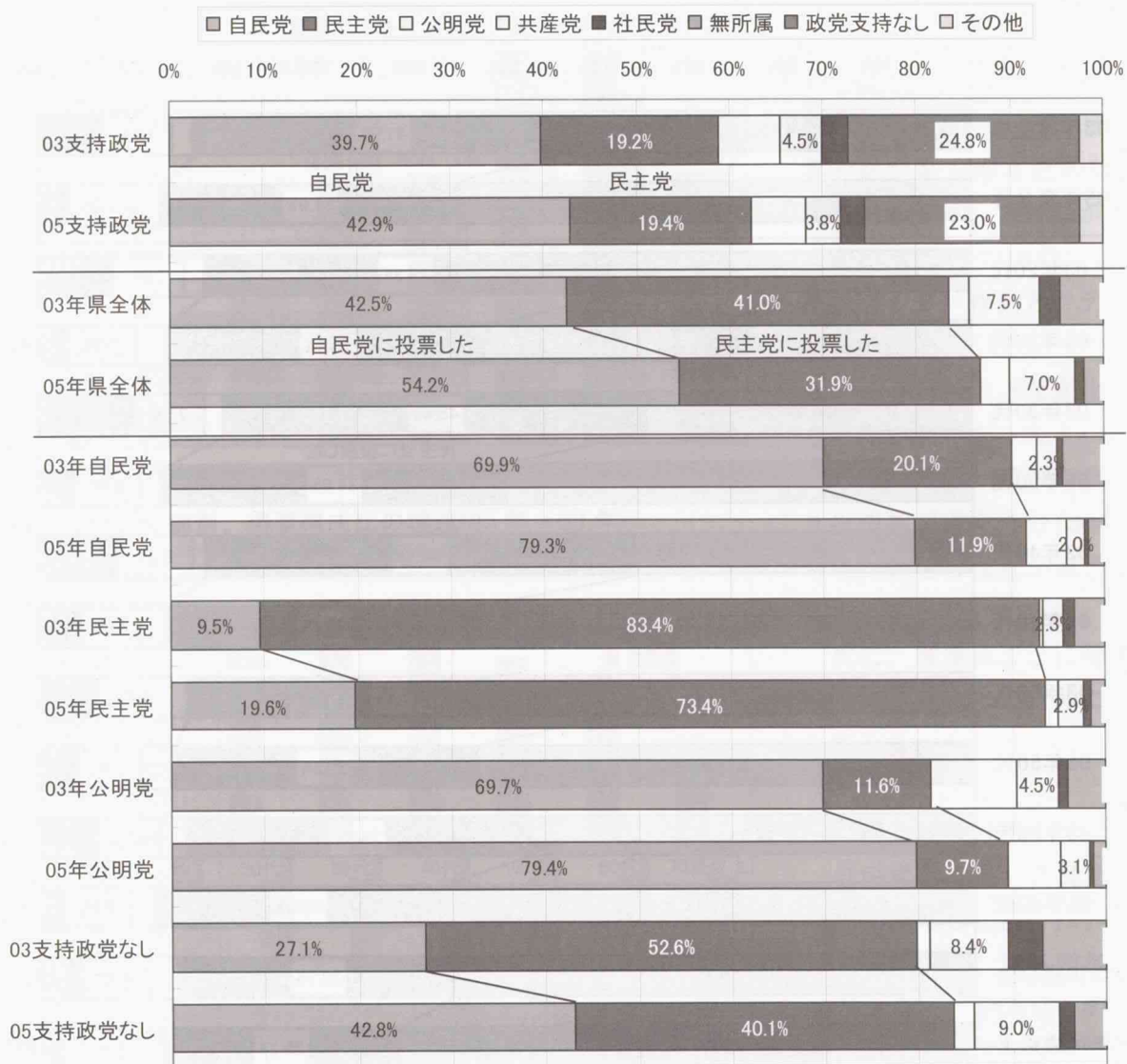
2. 出口調査の分析

1) 投票行動の変化

この理由を出口調査の結果から考察する。一般的には投票行動のタテ移動とヨコ移動のどちらかが起こると選挙結果への影響があるといわれているが、今回は両方が起きたといえる。タテ移動とは、厚い支持層を持つ自民党支持者が投票に行かないで投票率を下げた

図3 支持政党別の投票行動の変化(03、05年総選挙比較)

資料：神奈川新聞出口調査

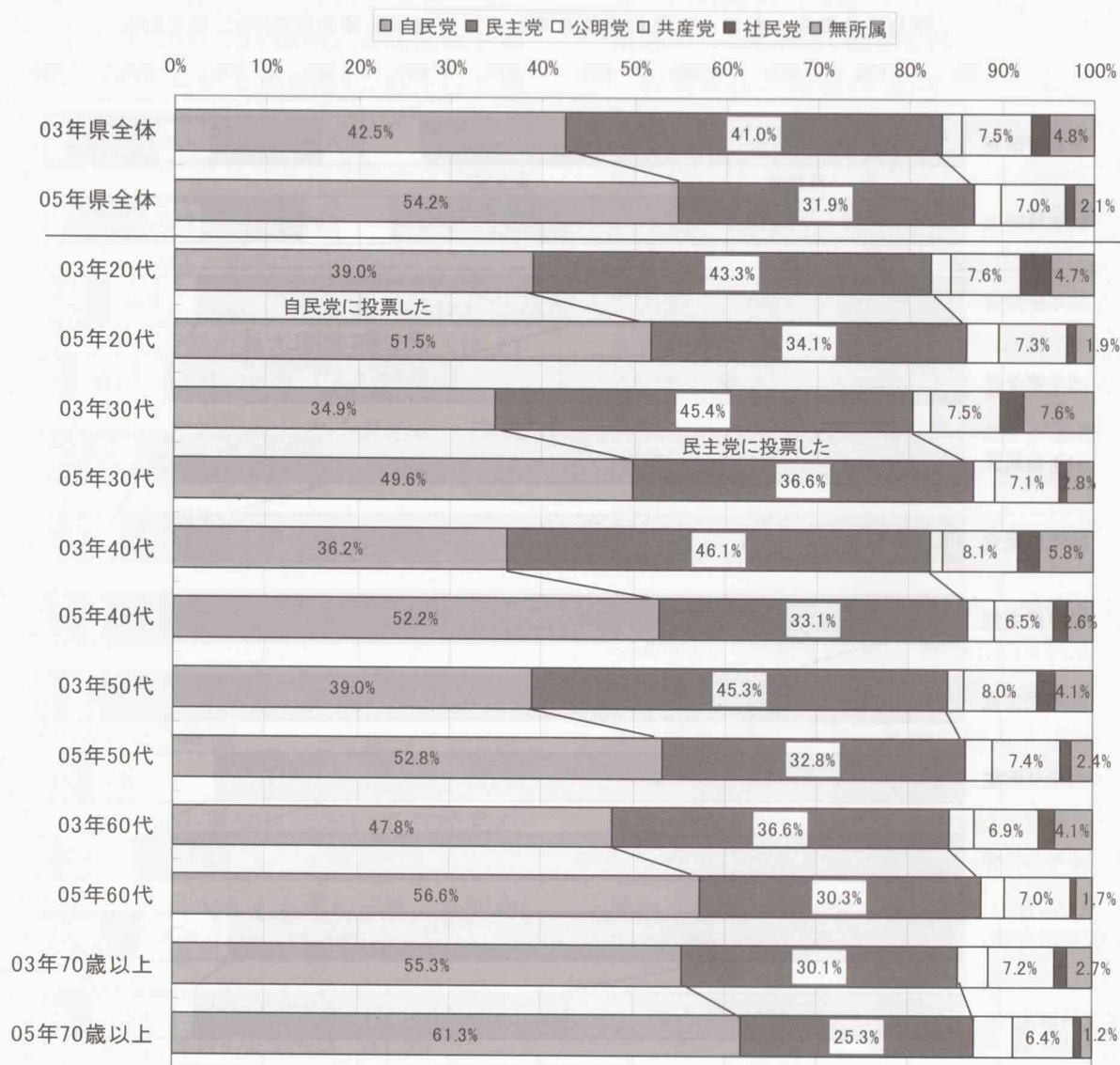


結果、それから無党派層が投票所に行き、そのことが投票率を押し上げる。そうすると、野党が勝ち、野党票がのびることである。ヨコ移動とは、それまでの支持政党を変えるケースをいうもので、政党支持なし層(無党派層)が投票所に足を運び、選挙のたびに投票行動を変えることなどである。今回は、その両方が同時に起きたといえ、自民党の支持者が大量に投票所に足を運び自民党に投票し、その上、政党支持なし層が自民党に民主党より多く投票した結果、自民党に票が動いたといえる。

各党の支持者がどの党の候補者に投票したのか、さらに政党の内部をどの程度固めたのかを考察する。自民党支持者で自民党の候補者に投票した人は前回の69.9%から79.3%と約10%増加した(図3)。さらに、前回は自民党支持者から民主党に流れた票が2割あったものが、今回は1割にとどまっている。その一方で、民主党支持者で民主党に投票した人は前回は83.4%であったのが今回は73.4%と10%も減少している。つまり、支持層が厚い自民党がその内部をしっかりと固めきったのに対して、自民党より支持層の薄い民

図4 年齢別の投票行動の変化

資料：神奈川新聞出口調査



主党が内部を固めきれなかったものであり、このことが民主党の大敗につながったといえる。

また、注目すべきは公明党であり、今回は 79.4%と 10%も増加しており、公明党の票が自民党に完全にシフトしたことがはっきりと出ている。選挙区別の極端な例では、神奈川 5 区において今回は公明党支持者が自民党候補者に 33%しか入れなかったのが、今回は 86%も投票するという状況が起

きており、5 区において田中氏が落選したことに直接結びついている。また、政党支持なし層では、今回は自民党には 27.1%しか入れてなかったのが、今回は 42.8%と 15%も増加し、その分民主党に投票した人の割合が 52.6%から 40.1%に 12.5%も減っている。

2) 年齢別の投票行動

年齢別にみると、当初、若年層が投票行動に走った傾向が強かったと考えていたが、実際に出口調査の結果を考察するとそうではな

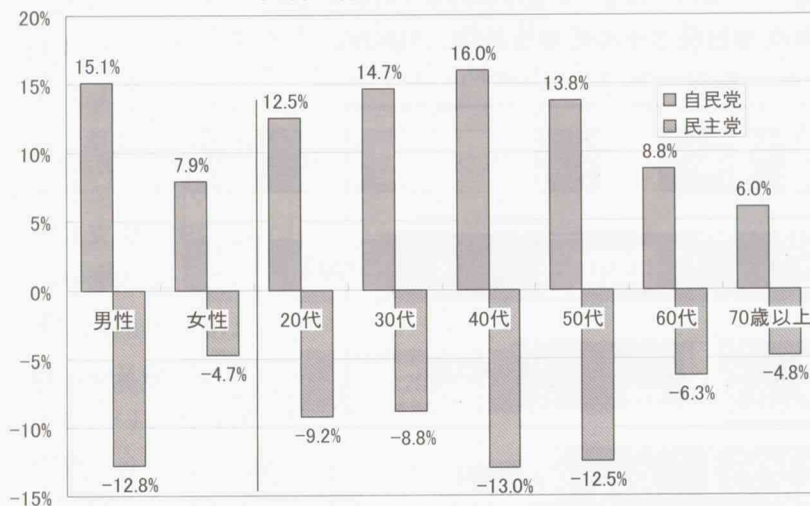
図5 年齢別、投票者数の構成比の変化(03、05年比較)

資料：神奈川新聞出口調査



図6 性別、年齢別、得票構成比の増減(05年-03年)

資料：神奈川新聞出口調査、投票した政党の割合



いことが明らかになった。投票行動の変化では、30代や40代において大きい。年齢別の投票者の構成比は20代では0.7%増、30代では2.3%増、40代では変化なし、50代、60代では減少している(図5)。

自民党と民主党の両党に投票した人を、性別と年齢別で03年と今回とを比較した投票行動の変化をみると、性別では男性の方が自民党に投票が流れた割合が女性より高く、前回よりも15%も高くなっていた(図6)。また、自民党候補者に投票した人は20代で12.5%、30代で14.7%、40代において16%と、この年齢層で投票した人の割合の増加率が大きく

なっていた。民主党への投票者は、20代・30代で9%の減少であったが40代で13%減と最も大きくなっていたことが注目される。つまり、投票者数が最も増えたのは30代であるが、投票行動が大きく変わったのは40代であり、この層のヨコ移動とタテ移動があったことが分かった。これが、今回の大きな変化を起こした要因であったといえる。全体的には、投票率が上がり投票数が増えた分(30代から40代)を自民党が獲得したということがいえる。

次に、選挙区ごとに特徴的な地区を3つほど詳細に分析してみる。

3) 第5区分析

自民党支持層が自民党の坂井氏に投票した割合は、前回の68%よりも12%増加して80%となっている(図7)。それに対して、民主党支持層が民主党の田中氏に投票した割合は前回の84%から10%減少して74%になり、22%が自民党に流れてしまっている。また、公明党支持層の坂井氏への投票が前回の33%から53%増加して86%が自民党にシフトしていることが分かる。これは、神奈川県内では公明党と民社協会との「公民協力」が5区と6区の間で長く続いていたが、連合が今回の選挙で民主党の全候補者を推薦することにより公民協力が絶たれた。このため、前回5区で田中氏の得票には公明党票の56%が入っていたものが、今回は12%に激減した。

また、政党支持なし層は、前回6割が池田

図7 各党の支持者は誰に投票したか(第5区)(03、05年比較)

資料：神奈川新聞出口調査

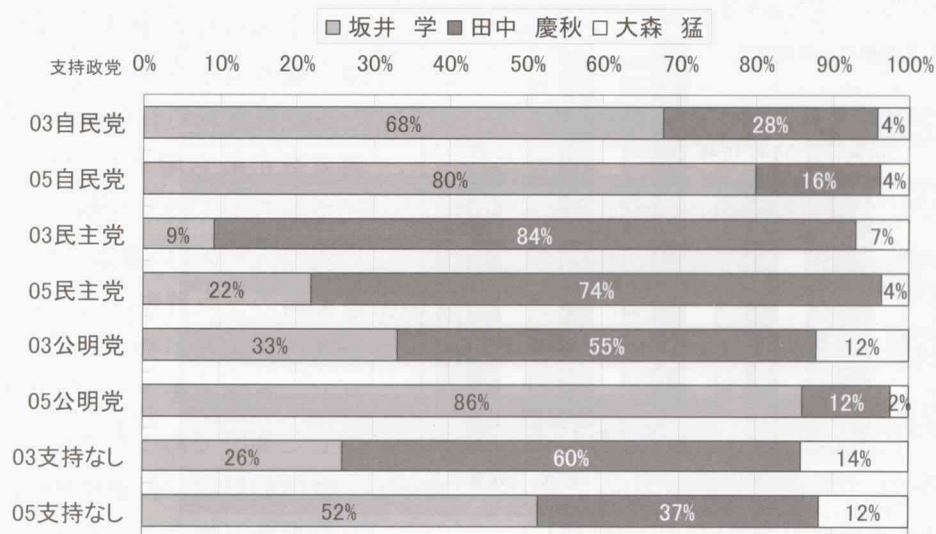
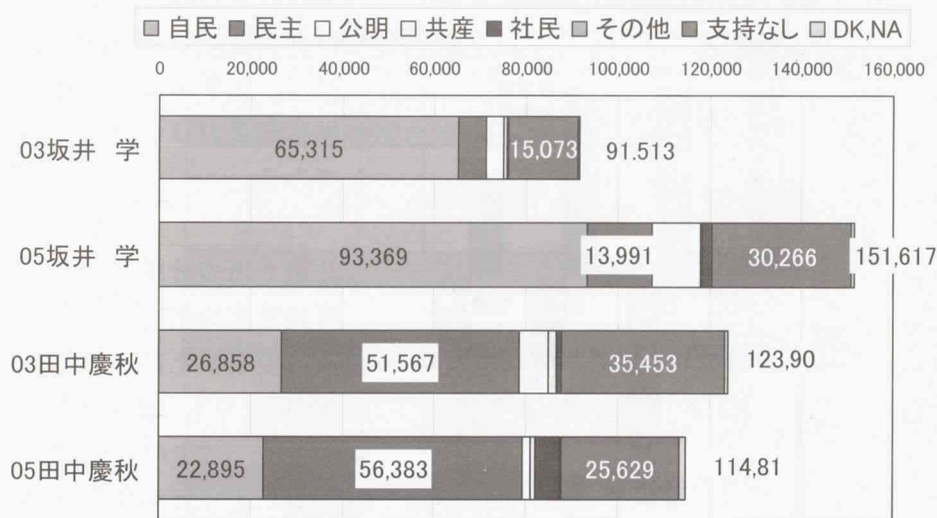


図8 支持政党別得票数比較(第5区) 資料：神奈川新聞出口調査からの推計



氏に投票していたものが今回は 37%にとどまっております、政党支持なし層でも逆転現象が起きた。最終的な得票結果を支持率に掛け合わせて推計してみると、坂井氏が前回の 91,513 票から今回は 151,617 票にのぼっている。この原因は、自民党支持層から票を固めたことが最も大きい。そして、公明党支持者や民主党支持者からも票を集めたことも影響している。それに対して田中氏は、民主党支持者層からの票は固めたものの、公明党支持者や政党支持なし層からの支持を得られなかったことが敗因である。従って、惜敗率は

70%を超えたものの、比例で復活することができなかった。

4) 第6区の分析

6区についても「公民協力」があるため、自民党支持者が公明党の上田勇氏を支持するかどうかと、民社協会の人々が公明党に協力するのがポイントになる。前回は自民党支持者が 58%しか上田勇氏に投票しなかったのが、今回は 79%が支持したことが大きかった(図9)。前回は無所属で勝又恒一郎氏が出ていたため、勝又氏に自民党票が流れていたが、今回はその分が上

田氏に集まったといえる。池田氏は、民主党支持層からの投票割合は 90%から 78%に減らしているが、投票者総数は増えているため、民主党支持層自体の票は増えており、前回社民党の上田恵子氏の票が民主党に流れてきている。つまり、民主党内は固めることができたが、全体では得票を増やしつつも自民党支持者から上田勇氏に投票した人が多かったため、上田氏が 12 万票獲得し、池田氏が 10 万票にとどまったといえる。

なお、上田氏に投票した公明党候補者数が 22,321 票から 13,333 票と約 8,000 票減った

図9 各党の支持者は誰に投票したか(第6区)(03、05年比較)

資料：神奈川新聞出口調査

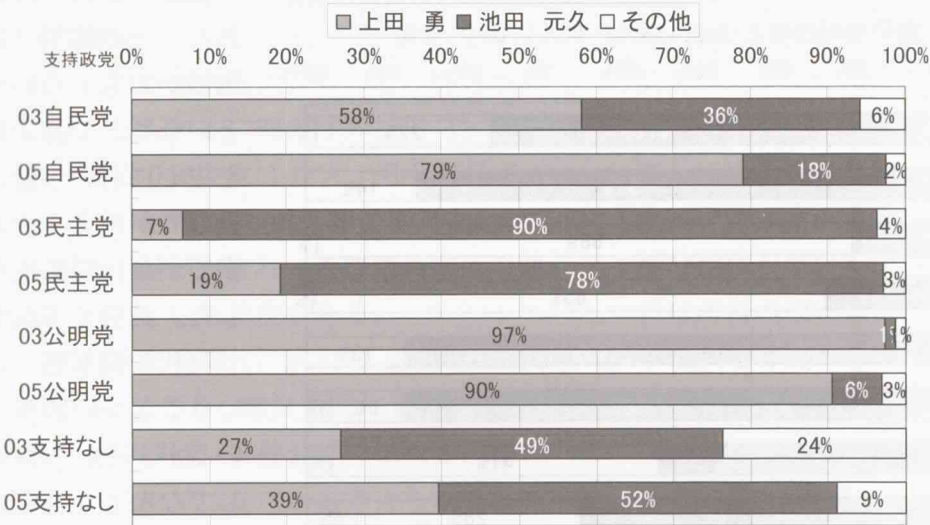
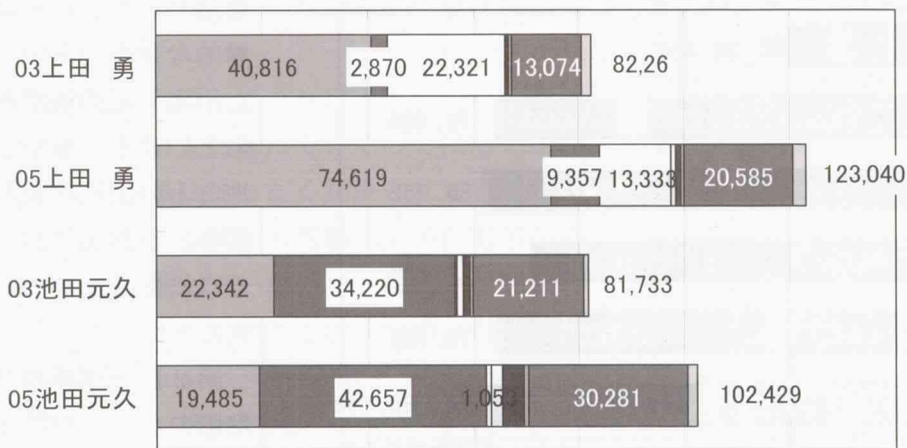


図10 支持政党別得票数比較(第6区) 資料：神奈川新聞出口調査からの推計

資料：神奈川新聞出口調査からの推計



ように見えるが、これは出口調査に基づいて推計したものであるため、不自然な形となっている(図10)。実は、前回の参院選挙から「期日前投票」という制度ができて、これまでの「不在者投票」よりも多くの投票所が設けられ投票しやすくなった。この「期日前投票」者の出口調査をNHKで行ったところ、半数以上が公明党に投票したと答えていたという。したがって、ここでの公明票の推計は選挙当日の出口調査をもとにしたものであり、期日前投票分が含まれていないため、公明票が減少したように推計されているのである。

たのが前回の12%よりも12%増え53%となっているが、江田氏へ投票流れて自民投票を固めきれなかった。また、政党支持なし層の票を44%と最も多く獲得した江田氏が優位な展開をみせた。岩國氏は、前回よりも得票を減らしたが、民主党支持層の66%を固め、支持政党なし層からも江田氏に次ぐ30%を獲得し、最終的には比例区で復活することができた。

この結果は、得票推計を見ると自民党支持層からの得票率を前回並みに奪った江田氏が、投票率の増加の影響を受けて得票を伸ばし、

5) 第8区の分析

小選挙区では江田憲司氏が当選したが、最終的には自民の福田氏・民主の岩國氏の2人とも比例区で復活を果たし、3人とも当選するという結果となった。この中でも無所属の江田憲司氏が健闘した。自民党支持層から江田氏に投票したのは前回の35%と今回は34%であり支持率ではほとんど同じ程度であったが、投票率が上昇したため、投票数は増え、江田氏の得票も増えたものといえる(図11)。自民党支持者が自民党の福田氏に投票し

図 11 各党の支持者は誰に投票したか(第 8 区)(03、05 年比較)

資料：神奈川新聞出口調査

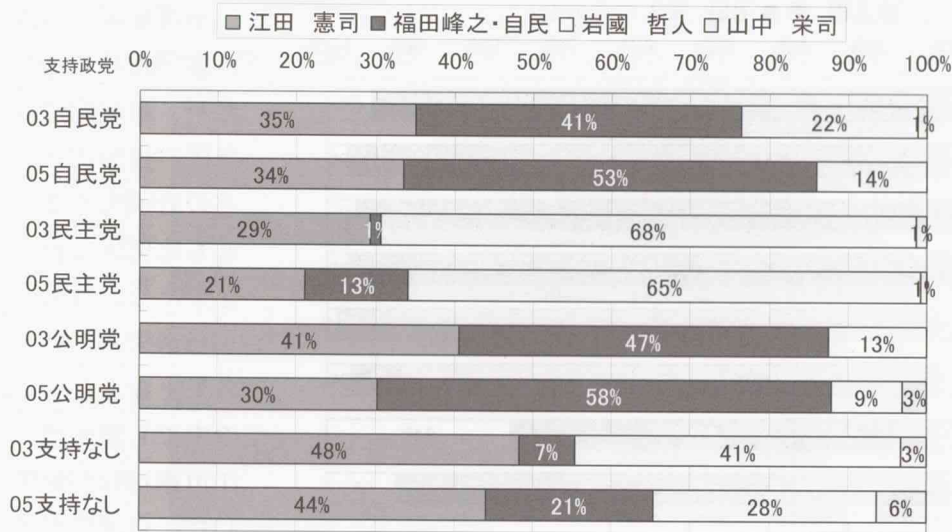
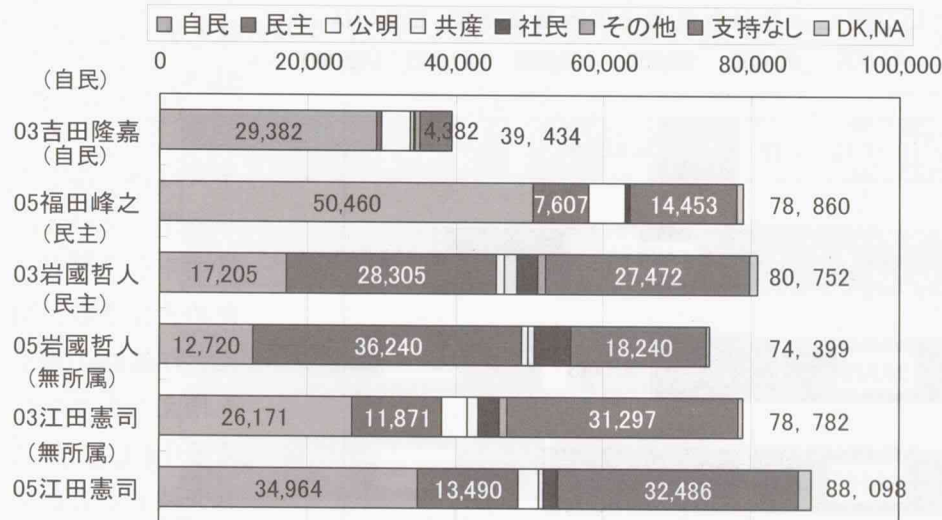


図 12 支持政党別得票数比較(第 8 区) 資料：神奈川新聞出口調査からの推計



当選することになったことが明らかである(図 12)。

Ⅲ 自民党の勝利、民主党惨敗の背景

第 1 に、権力への過剰同調の現象である。郵政民営化が改革の本丸といったワンフレーズポリティクスのわかりやすさが非常に受けたこと、「小泉劇場」といわれているように、郵政民営化に反対した人を非公認にして、そこに公認候補者を「刺客」として送り込みむ

ということがマスコミ報道で盛んに行われた。その結果「総選挙がおもしろい」ということで都市部を中心に若い年齢の投票者が増え、その多くが自民党に投票した。長引く不況で「時代の閉塞感」ということがいわれているが、それらに対してなんとか打開をするという強いリーダーシップが期待されていた中で、刺客を送り込むという攻撃的な選挙を展開した小泉首相の戦略勝ちといえる。都市と地方との逆転現象が起き、首都圏における自民党回帰が出てきたといえる。

第 2 に政権獲得の準備のなかった民主党である。政権奪取

を目指した民主党が負けた理由は、自民党と同様に市場原理主義に近い考えを持った議員集団を抱えており、改革の本家であったにもかかわらず、改革路線が明確になっていなかったことである。それと同時に決定的な内部の意思統一の不足がある。民主党のマニフェストと候補者の個人的な政策をみると、マニフェストと違う意見を述べている候補者が多くいたのである。マニフェスト自体が選挙政策の中心柱であったが、これが徹底していなかったことが強い敗因となったといえる。

そして、第 3 には、民主党自身が地域に根

付いていないことがある。政党自体が国会議員を中心とし、国会議員が総支部の支部長となる政党組織であるため、国会議員中心となり地方には所属議員が誰もいない地方があるということもある。例えば神奈川 11 区では、市議員で民主党は 0 人、県議員が 1 人いるだけであり、いわば足腰の不足といえ、日常活動の不足が生まれ、各級議員同士の連帯感が不足している状況がある。

かつて、社会党時代に成田 3 原則(労組依存、日常活動の不足、議員党的体質)の性格が労組依存を除けば、旧社会党の伝統と同様のことがいえたのではないかと考えられる。本来は、この傾向は次の選挙によってどのように変わるのかが期待されなければならないのであるが、まだそこまで展望が開けていないようである。山積している国民的課題はたくさんある。

今後国民の右傾化はこれ以上進むのか。憲法改正の問題がまた進んでいくのではないか。社会保障の問題はまったく解決されていない、年金の問題、医療保険の問題、少子化対策などもまったく進んでいない。一番大きな問題として、国と地方を通じる財政危機、財政破綻の問題、これをどうするのか。これを解決するためには、歳出削減といっても、国の税収はいま年間 40 兆円ぐらいしかない。それに対して借金の残高は国と地方を合わせると、1 千兆円といわれているが、年間の予算が 82 ~ 83 兆円で、年間予算を一銭も使わず借金返しに当てても 10 年かかる。増税の話が今後出てくるのではないか。地方分権の課題は、世界的に大きく流れてきているが、三位一体改革が頓挫している状況からすれば、これもどこへいくのか。非常に大きな国民的課題が残されたままというのが現状である。

これに対して、市民から対抗軸が出せるのかどうか。対抗軸としては、①社会的共通資本の充実、政府と市民との協働による政治を

目指すのか。それともナショナリズムを中心とした新国家主義を目指すのか、二つの選択肢がある。さらに、②市民自治による福祉社会をつくっていくのか、政官財の癒着をそのまま続けて、個別利益を追求することにまい進していくのかという選択肢。③市民生活のセイフティネットをつくりあげていくか、二極分化にしていく所得階層のなかで、結果的には所得のない人が社会的に排除されるという現状を容認するのか、それを傍観していくのか。こういうことが、これから問われるようになってくるだろう。

このことについて、野党側、民主党が、どれだけ有効な手立てを出せるのかどうか、今後の勝敗を決めることになるだろう。究極的には、「市民の政府」に向けた地域活動の必要性や、市民の政府づくりをどう進めるのかという課題も、併せて追求される必要がある。

現実の選挙結果の話と、対抗軸との間のギャップの大きさを実感しており、対抗軸を述べてみたが、これらは今後の議論の中から積み重ねていきたい。

資料

表 小選挙区・比例区、都道府県別投票率比較(2003年11月9日執行、2005年9月11日執行)

	有権者数	小選挙区			比例区		
		小選挙区	05年	03年	増減	05年	03年
北海道	4,640,240	71.05	62.97	8.08	71.01	62.93	8.08
青森	1,189,643	65.04	57.51	7.53	64.99	57.47	7.52
岩手	1,130,065	70.82	67.34	3.48	70.79	67.30	3.49
宮城	1,895,838	64.58	58.92	5.66	64.55	58.88	5.67
秋田	959,970	70.60	66.74	3.86	73.79	69.52	4.27
山形	984,809	73.84	69.60	4.24	73.79	69.52	4.27
福島	1,675,259	71.62	67.26	4.36	71.57	67.20	4.37
東北	7,835,584				68.91	63.96	4.95
茨城	2,399,941	64.46	55.95	8.51	64.43	55.94	8.49
栃木	1,615,015	65.58	59.82	5.76	65.55	59.79	5.76
群馬	1,624,871	66.29	57.90	8.39	66.25	57.86	8.39
埼玉	5,663,374	64.88	53.98	10.90	64.85	53.95	10.90
北関東	11,303,201				65.06	55.77	9.29
千葉	4,903,610	64.59	56.82	7.77	64.54	56.77	7.77
神奈川	7,079,406	67.08	57.78	9.30	67.01	57.72	9.29
山梨	705,433	71.31	62.10	9.21	71.26	62.06	9.20
南関東	12,688,449				66.29	57.60	8.69
東京	10,242,560	65.59	58.35	7.24	65.51	58.27	7.24
新潟	1,984,391	71.57	66.08	5.49	71.53	66.02	5.51
富山	911,652	71.16	59.24	11.92	71.11	59.18	11.93
石川	944,729	71.27	63.88	7.39	71.24	63.85	7.39
福井	656,285	71.68	64.81	6.87	71.64	64.77	6.87
長野	1,768,454	71.70	65.99	5.71	71.66	65.94	5.72
北陸信越	6,265,511				71.47	64.54	6.93
岐阜	1,689,387	72.31	64.03	8.28	72.28	64.00	8.28
静岡	3,047,170	68.81	63.55	5.26	68.77	63.51	5.26
愛知	5,657,925	66.48	59.30	7.18	66.44	59.27	7.17
三重	1,494,567	71.19	65.08	6.11	71.15	65.05	6.10
東海	11,889,049				68.46	61.76	6.70
滋賀	1,073,021	69.52	61.42	8.10	69.49	61.38	8.11
京都	2,098,322	66.25	56.93	9.32	66.21	56.89	9.32
大阪	7,030,978	65.37	54.92	10.45	65.32	54.89	10.43
兵庫	4,493,614	66.71	59.11	7.60	66.66	59.07	7.59
奈良	1,157,811	70.32	61.61	8.71	70.29	61.57	8.72
和歌山	863,347	69.24	60.33	8.91	69.20	60.29	8.91
近畿	16,717,093				66.61	57.42	9.19
鳥取	493,050	72.86	66.94	5.92	72.82	66.90	5.92
島根	605,450	75.81	70.66	5.15	75.77	70.62	5.15
岡山	1,577,061	65.71	59.05	6.66	65.68	59.02	6.66
広島	2,318,227	68.44	58.58	9.86	68.39	58.54	9.85
山口	1,230,492	69.07	64.81	4.26	69.03	64.76	4.27
中国	6,224,280				68.90	61.74	7.16
徳島	668,544	67.66	60.77	6.89	67.59	60.71	6.88
香川	834,214	67.07	56.28	10.79	67.04	56.25	10.79
愛媛	1,211,895	65.81	57.33	8.48	65.78	57.31	8.47
高知	658,942	64.12	56.92	7.20	64.05	56.87	7.18
四国	3,373,595				66.11	57.64	8.47
福岡	4,044,967	66.63	58.34	8.29	66.60	58.32	8.28
佐賀	690,551	72.25	64.47	7.78	72.20	64.43	7.77
長崎	1,199,304	68.35	62.08	6.27	68.32	62.04	6.28
熊本	1,491,480	69.34	64.41	4.93	69.28	64.35	4.93
大分	994,199	72.49	69.66	2.83	72.44	69.61	2.83
宮崎	939,578	68.69	63.14	5.55	68.64	63.09	5.55
鹿児島	1,416,803	69.69	64.14	5.55	69.65	64.10	5.55
沖縄	1,028,769	62.35	59.02	3.33	62.08	58.68	3.40
九州	11,805,651				68.06	61.88	6.18
全国計	102,985,213	67.51	59.86	7.65	67.46	59.81	7.65

単位：人、%

表 03年、05年党派別得票数(率)比較(全国合計、北海道、東北、北関東、東京、南関東、北陸信越、東海)

			有効投票 得票数		自由民主党 得票数 得票率		民主党 得票数 得票率		公明党 得票数 得票率		日本共産党 得票数 得票率		社会民主党 得票数 得票率		国民新党・保守新党 得票数 得票率		新党日本・無所属の会 得票数 得票率		新党大地・諸派 得票数 得票率		無所属 得票数 得票率	
全国合計	05年	小選挙区	68,066,289	32,518,398	47.8%	24,804,786	36.4%	981,105	1.4%	4,937,375	7.3%	996,007	1.5%	432,679	0.6%	137,172	0.2%	18,255	0.0%	3,240,521	4.8%	
	03年	小選挙区	59,502,371	26,089,326	43.8%	21,814,153	36.7%	886,507	1.5%	4,837,952	8.1%	1,708,672	2.9%	791,588	1.3%	497,108	0.8%	148,947	0.3%	2,728,118	4.6%	
	05年-03年		8,563,918	6,429,072	3.9%	2,990,633	-0.2%	94,598	0.0%	99,423	-0.9%	-712,665	-1.4%	-358,909	-0.7%	-359,936	-0.6%	-130,692	-0.2%	512,403	0.2%	
全国合計	05年	比例区	67,811,069	25,887,798	38.2%	21,036,425	31.0%	8,987,620	13.3%	4,919,187	7.3%	3,719,522	5.5%	1,183,073	1.7%	1,643,506	2.4%	433,938	0.6%	0	0.0%	
	03年	比例区	59,102,827	20,660,185	35.0%	22,095,636	37.4%	8,733,444	14.8%	4,586,172	7.8%	3,027,390	5.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	05年-03年		8,708,242	5,227,613	3.2%	-1,059,211	-6.4%	254,176	-1.5%	333,015	-0.5%	692,132	0.4%	1,183,073	1.7%	1,643,506	2.4%	433,938	0.6%	0	0.0%	
北海道	05年	小選挙区	3,234,657	1,434,994	44.4%	1,451,165	44.9%	0	0.0%	253,196	7.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	16,698	0.5%	78,604	2.4%	
	03年	小選挙区	2,852,322	1,225,935	43.0%	1,223,595	42.9%	0	0.0%	236,721	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	113,676	4.0%	
	05年-03年		382,335	209,059	1.4%	227,570	2.0%	0	0.0%	16,475	-0.5%	-52,395	-1.8%	0	0.0%	0	0.0%	16,698	0.5%	-35,072	-1.6%	
北海道	05年	比例区	3,227,939	940,705	29.1%	1,090,727	33.8%	368,552	11.4%	241,371	7.5%	152,646	4.7%	0	0.0%	0	0.0%	433,938	13.4%	0	0.0%	
	03年	比例区	2,825,555	876,653	31.0%	1,153,471	40.8%	394,843	14.0%	253,442	9.0%	147,146	5.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	05年-03年		402,384	64,052	-1.9%	-62,744	-7.0%	-26,291	-2.6%	88,929	-1.5%	5,500	-0.5%	0	0.0%	0	0.0%	433,938	13.4%	0	0.0%	
東北	05年	小選挙区	5,306,766	2,541,456	47.9%	2,053,856	38.7%	0	0.0%	257,506	4.9%	189,076	3.6%	65,123	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	199,749	3.8%	
	03年	小選挙区	4,913,655	2,076,903	42.3%	1,723,212	35.1%	0	0.0%	271,428	5.5%	144,243	2.9%	49,777	1.0%	193,968	3.9%	0	0.0%	454,124	9.2%	
	05年-03年		393,111	464,553	5.6%	330,644	3.6%	0	0.0%	-13,922	-0.7%	44,833	0.6%	15,346	0.2%	-193,968	-3.9%	0	0.0%	-254,375	-5.5%	
東北	05年	比例区	5,203,030	1,901,595	36.5%	1,748,165	33.6%	620,638	11.9%	325,176	6.2%	302,523	5.8%	244,933	4.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	03年	比例区	4,767,708	1,794,274	37.6%	1,784,768	37.4%	565,179	11.9%	313,290	6.6%	310,187	6.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	05年-03年		435,322	107,321	-1.1%	-36,603	-3.8%	55,459	0.1%	11,886	-0.3%	-7,664	-0.7%	244,933	4.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
北関東	05年	小選挙区	7,201,575	3,818,287	53.0%	2,618,588	36.4%	0	0.0%	494,041	6.9%	36,792	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	233,867	3.2%	
	03年	小選挙区	6,096,616	3,015,090	49.5%	2,301,668	37.8%	103,511	1.7%	425,602	7.0%	107,316	1.8%	59,910	1.0%	6,237	0.1%	0	0.0%	77,282	1.3%	
	05年-03年		1,104,959	803,197	3.6%	316,920	-1.4%	-103,511	-1.7%	68,439	-0.1%	-70,524	-1.2%	-59,910	-1.0%	0	0.0%	-6,237	-0.1%	156,585	2.0%	
北関東	05年	比例区	7,187,731	2,892,780	40.2%	2,260,717	31.5%	937,345	13.0%	477,958	6.6%	323,979	4.5%	0	0.0%	294,952	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	
	03年	比例区	6,066,322	2,275,223	37.5%	2,299,620	37.9%	857,490	14.1%	402,849	6.6%	231,140	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	05年-03年		1,121,409	617,557	2.7%	-38,903	-6.5%	79,855	-1.1%	75,109	0.0%	92,839	0.7%	0	0.0%	294,952	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	
東京	05年	小選挙区	6,556,557	3,276,270	50.0%	2,390,033	36.5%	109,636	1.7%	642,773	9.8%	14,952	0.2%	0	0.0%	41,089	0.6%	1,557	0.0%	80,247	1.2%	
	03年	小選挙区	5,693,374	2,299,464	40.4%	2,400,609	42.2%	98,700	1.7%	548,806	9.6%	57,846	1.0%	71,506	1.3%	117,871	2.1%	3,404	0.1%	95,168	1.7%	
	05年-03年		863,183	976,806	9.6%	-10,576	-5.7%	10,936	0.2%	93,967	0.2%	-42,894	-0.8%	-71,506	-1.3%	-76,782	-1.4%	-1,847	0.0%	-14,921	-0.4%	
東京	05年	比例区	6,624,594	2,665,417	40.2%	1,962,225	29.6%	820,126	12.4%	586,017	8.8%	300,782	4.5%	0	0.0%	290,027	4.4%	0	0.0%	0	0.0%	
	03年	比例区	5,743,787	1,867,544	32.5%	2,291,124	39.9%	805,640	14.0%	532,376	9.3%	247,103	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	05年-03年		880,807	797,873	7.7%	-328,899	-10.3%	14,486	-1.6%	53,641	-0.4%	53,679	0.2%	0	0.0%	290,027	4.4%	0	0.0%	0	0.0%	
南関東	05年	小選挙区	8,246,494	4,259,111	51.6%	2,953,028	35.8%	123,040	1.5%	584,969	7.1%	43,905	0.5%	10,746	0.1%	28,498	0.3%	0	0.0%	243,197	2.9%	
	03年	小選挙区	7,009,855	3,153,897	45.0%	2,796,695	39.9%	82,269	1.2%	569,021	8.1%	102,051	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	41,883	0.6%	264,039	3.8%	
	05年-03年		1,236,639	1,105,214	6.7%	156,333	-4.1%	40,771	0.3%	15,948	-1.0%	-58,146	-0.9%	10,746	0.1%	28,498	0.3%	-41,883	-0.6%	-20,842	-0.8%	
南関東	05年	比例区	8,279,219	3,510,617	42.4%	2,439,549	29.5%	1,007,504	12.2%	566,945	6.8%	444,753	5.4%	0	0.0%	309,851	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	
	03年	比例区	7,052,127	2,441,590	34.6%	2,819,165	40.0%	969,464	13.7%	521,309	7.4%	300,599	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	05年-03年		1,227,092	1,069,027	7.8%	-379,616	-10.5%	38,040	-1.6%	45,636	-0.5%	144,154	1.1%	0	0.0%	309,851	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	
北陸信越	05年	小選挙区	4,386,502	2,068,089	47.1%	1,598,685	36.4%	0	0.0%	284,853	6.5%	132,540	3.0%	143,928	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	158,407	3.6%	
	03年	小選挙区	3,948,449	1,832,062	46.4%	1,313,796	33.3%	0	0.0%	274,809	7.0%	188,787	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	338,995	8.6%	
	05年-03年		438,053	236,027	0.7%	284,889	3.2%	0	0.0%	10,044	-0.5%	-56,247	-1.8%	143,928	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	-180,588	-5.0%	
北陸信越	05年	比例区	4,348,982	1,665,553	38.3%	1,414,392	32.5%	403,203	9.3%	293,045	6.7%	272,649	6.3%	300,140	6.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	03年	比例区	3,864,315	1,502,822	38.9%	1,424,537	36.9%	390,921	10.1%	278,939	7.2%	267,096	6.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	05年-03年		484,667	162,731	-0.6%	-10,145	-4.3%	12,282	-0.8%	14,106	-0.5%	5,553	-0.6%	300,140	6.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
東海	05年	小選挙区	8,000,659	3,739,776	46.7%	3,298,926	41.2%	0	0.0%	472,040	5.9%	7,560	0.1%	15,314	0.2%	15,943	0.2%	0	0.0%	451,100	5.6%	
	03年	小選挙区	7,090,420	2,840,977	40.1%	3,233,321	45.6%	0	0.0%	495,368	7.0%	26,265	0.4%	292,507	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	338,995	4.8%	
	05年-03年		910,239	898,799	6.7%	65,605	-4.4%	0	0.0%	-23,328	-1.1%	-18,705	-0.3%	-277,193	-3.9%	15,943	0.2%	0	0.0%	112,105	0.9%	
東海	05年	比例区	7,950,624	3,066,048	38.6%	2,766,443	34.8%	987,290	12.4%	502,501	6.3%	300,574	3.8%	0	0.0%	327,768	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	
	03年	比例区	7,046,113	2,436,791	34.6%	2,872,501	40.8%	1,002,576	14.2%	474,414	6.7%	259,831	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	05年-03年		904,511	629,257	4.0%	-106,058	-6.0%	-15,286	-1.8%	28,087	-0.4%	40,743	0.1%	0	0.0%	327,768	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	

表 03年、05年党派別得票数(率)比較(近畿、中国、四国、九州)

			有効投票 得票数	自由民主党 得票数 得票率	民主党 得票数 得票率	公明党 得票数 得票率	日本共産党 得票数 得票率	社会民主党 得票数 得票率	国民新党・保守新党 得票数 得票率	新党日本・無所属の会 得票数 得票率	新党大地・諸派 得票数 得票率	無所属 得票数 得票率
近畿	05年	小選挙区	10,876,027	4,508,227 41.5%	3,957,188 36.4%	680,889 6.3%	1,167,697 10.7%	137,653 1.3%		51,642 0.5%		372,731 3.4%
	03年	小選挙区	9,233,667	3,214,712 34.8%	3,448,332 37.3%	543,697 5.9%	1,160,871 12.6%	172,976 1.9%	317,888 3.4%	123,797 1.3%		251,394 2.7%
	05年-03年		1,642,360	1,293,515 6.6%	508,856 -1.0%	137,192 0.4%	6,826 -1.8%	-35,323 -0.6%	-317,888 -3.4%	-72,155 -0.9%	0 0.0%	121,337 0.7%
近畿	05年	比例区	10,880,183	4,003,209 36.8%	3,157,556 29.0%	1,626,678 15.0%	1,051,949 9.7%	619,883 5.7%		420,908 3.9%		
	03年	比例区	9,230,362	2,833,181 30.7%	3,425,342 37.1%	1,604,469 17.4%	992,142 10.7%	375,228 4.1%				
	05年-03年		1,649,821	1,170,028 6.1%	-267,786 -8.1%	22,209 -2.4%	59,807 -1.1%	244,655 1.6%	0 0.0%	420,908 3.9%	0 0.0%	0 0.0%
中国	05年	小選挙区	4,204,583	2,077,384 49.4%	1,362,965 32.4%		231,747 5.5%	69,088 1.6%	183,077 4.4%			280,322 6.7%
	03年	小選挙区	3,726,713	2,028,678 54.4%	1,116,542 30.0%		236,926 6.4%	136,466 3.7%		61,472 1.6%		146,629 3.9%
	05年-03年		477,870	48,706 -5.0%	246,423 2.5%	0 0.0%	-5,179 -0.8%	-67,378 -2.0%	183,077 4.4%	-61,472 -1.6%	0 0.0%	133,693 2.7%
中国	05年	比例区	4,186,008	1,537,080 36.7%	1,196,971 28.6%	658,702 15.7%	247,073 5.9%	215,636 5.2%	330,546 7.9%			
	03年	比例区	3,712,260	1,388,768 37.4%	1,254,880 33.8%	657,311 17.7%	234,359 6.3%	176,942 4.8%				
	05年-03年		473,748	148,312 -0.7%	-57,909 -5.2%	1,391 -2.0%	12,714 -0.4%	38,694 0.4%	330,546 7.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
四国	05年	小選挙区	2,176,597	1,158,178 53.2%	723,858 33.3%		175,145 8.0%	53,557 2.5%				65,859 3.0%
	03年	小選挙区	1,879,437	1,056,309 56.2%	582,496 31.0%		149,019 7.9%	78,458 4.2%				146,629 7.8%
	05年-03年		297,160	101,869 -3.0%	141,362 2.3%	0 0.0%	26,126 0.1%	-24,901 -1.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	-80,770 -4.8%
四国	05年	比例区	2,146,331	821,746 38.3%	711,927 33.2%	317,575 14.8%	175,994 8.2%	119,089 5.5%				
	03年	比例区	1,852,235	708,051 38.2%	587,828 31.7%	309,160 16.7%	148,953 8.0%	98,243 5.3%				
	05年-03年		294,096	113,695 0.1%	124,099 1.4%	8,415 -1.9%	27,041 0.2%	20,846 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
九州	05年	小選挙区	7,875,867	3,636,616 46.2%	2,396,493 30.4%	67,540 0.9%	373,405 4.7%	310,884 3.9%	14,491 0.2%			1,076,438 13.7%
	03年	小選挙区	7,057,861	3,345,299 47.4%	1,673,887 23.7%	58,330 0.8%	469,380 6.7%	641,868 9.1%		97,423 1.4%		771,674 10.9%
	05年-03年		818,006	291,317 -1.2%	722,606 6.7%	9,210 0.0%	-95,975 -1.9%	-330,984 -5.1%	14,491 0.2%	0 0.0%	-97,423 -1.4%	304,764 2.7%
九州	05年	比例区	7,776,428	2,883,048 37.1%	2,287,753 29.4%	1,240,007 15.9%	451,158 5.8%	607,008 7.8%	307,454 4.0%			
	03年	比例区	6,942,043	2,535,278 36.5%	2,182,400 31.4%	1,176,391 16.9%	434,099 6.3%	613,875 8.8%				
	05年-03年		834,385	347,770 0.6%	105,353 -2.0%	63,616 -1.0%	17,059 -0.5%	-6,867 -1.0%	307,454 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	05年	小選挙区	68,066,284	32,518,388 47.8%	24,804,785 36.4%	981,105 1.4%	4,937,372 7.3%	996,007 1.5%	432,679 0.6%	137,172 0.2%	18,255 0.0%	3,240,521 4.8%
	03年	小選挙区	59,502,369	26,089,326 43.8%	21,814,153 36.7%	886,507 1.5%	4,837,951 8.1%	1,708,671 2.9%	791,588 1.3%	497,108 0.8%	148,947 0.3%	2,998,605 5.0%
	05年-03年		8,563,915	6,429,062 3.9%	2,990,632 -0.2%	94,598 0.0%	99,421 -0.9%	-712,664 -1.4%	-358,909 -0.7%	-359,936 -0.6%	-130,692 -0.2%	241,916 -0.3%
合計	05年	比例区	67,811,069	25,887,798 38.2%	21,036,425 31.0%	8,987,620 13.3%	4,919,187 7.3%	3,659,522 5.4%	1,183,073 1.7%	1,643,506 2.4%	433,938 0.6%	0 0.0%
	03年	比例区	59,102,827	20,660,175 35.0%	22,095,636 37.4%	8,733,444 14.8%	4,586,172 7.8%	3,027,390 5.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	05年-03年		8,708,242	5,227,623 3.2%	-1,059,211 -6.4%	254,176 -1.5%	333,015 -0.5%	632,132 0.3%	1,183,073 1.7%	1,643,506 2.4%	433,938 0.6%	0 0.0%

表 神奈川県、小選挙区選挙候補者別結果(2005年9月11日執行)

届出番号	候補者氏名	得票数	得票率	惜敗率	所属党派
1	松本 純	161,702	58.3%	100.0%	自由民主党
3	さとう 謙一郎	95,601	34.4%	59.1%	民主党
2	高山 修	20,216	7.3%	12.5%	日本共産党
第1区計		277,519	100.0%		—
1	すが 義偉	160,111	58.4%	100.0%	自由民主党
2	大出 彰	91,723	33.5%	57.3%	民主党
3	板谷 みや子	22,284	8.1%	13.9%	日本共産党
第2区計		274,118	100.0%		—
2	おこのぎ 八郎	131,831	53.2%	100.0%	自由民主党
3	かとう 尚彦	76,625	30.9%	58.1%	民主党
4	大谷 つとむ	21,810	8.8%	16.5%	日本共産党
5	河野 としひさ	12,537	5.1%	9.5%	新党日本
1	山下 浩一郎	5,007	2.0%	3.8%	無所属
第3区計		247,810	100.0%		—
3	林 じゅん	119,618	52.5%	100.0%	自由民主党
1	大石 尚子	78,326	34.4%	65.5%	民主党
4	高野 よしひろ	15,961	7.0%	13.3%	新党日本
2	林 のぶあき	13,775	6.1%	11.5%	日本共産党
第4区計		227,680	100.0%		—
2	さかい 学	151,617	51.1%	100.0%	自由民主党
1	田中 慶秋	114,816	38.7%	75.7%	民主党
3	大森 たけし	30,407	10.2%	20.1%	日本共産党
第5区計		296,840	100.0%		—
1	上田 いさむ	123,040	49.9%	100.0%	公明党
3	池田 元久	102,429	41.5%	83.2%	民主党
2	さとう 清	21,146	8.6%	17.2%	日本共産党
第6区計		246,615	100.0%		—
2	鈴木 恒夫	145,371	57.1%	100.0%	自由民主党
3	すとう 信彦	92,721	36.4%	63.8%	民主党
1	ひが 常一	16,689	6.6%	11.5%	日本共産党
第7区計		254,781	100.0%		—
3	江田 けんじ	88,098	34.8%	100.0%	無所属
1	岩國 哲人	78,860	31.2%	89.5%	民主党
4	ふくだ 峰之	74,399	29.4%	84.5%	自由民主党
2	山中 えいじ	11,578	4.6%	13.1%	日本共産党
第8区計		252,935	100.0%		—
1	山内 康一	86,673	46.6%	100.0%	自由民主党
2	笠 ひろふみ	82,878	44.5%	95.6%	民主党
3	かもした 元	16,636	8.9%	19.2%	日本共産党
第9区計		186,187	100.0%		—

届出番号	候補者氏名	得票数	得票率	惜敗率	所属党派
2	田中 かずのり	160,669	56.4%	100.0%	自由民主党
1	はかりや 圭宏	89,025	31.3%	55.4%	民主党
3	笠木 たかし	34,971	12.3%	21.8%	日本共産党
第10区計		284,665	100.0%		—
4	小泉 純一郎	197,037	73.2%	100.0%	自由民主党
5	斉藤 つよし	50,551	18.8%	25.7%	民主党
1	せと 和弘	11,377	4.2%	5.8%	日本共産党
2	天木 直人	7,475	2.8%	3.8%	無所属
3	羽柴 秀吉	2,874	1.1%	1.5%	無所属
第11区計		269,314	100.0%		—
3	桜井 いくぞう	108,898	46.9%	100.0%	自由民主党
1	中塚 一宏	75,865	32.7%	69.7%	民主党
2	あべ ともこ	35,133	15.1%	32.3%	社会民主党
4	沼上 つねお	12,211	5.3%		日本共産党
第12区計		232,107	100.0%		—
2	甘利 明	174,361	61.1%	100.0%	自由民主党
3	つちだ 龍司	88,170	30.9%	50.6%	民主党
1	近藤 ちあき	22,907	8.0%	13.1%	日本共産党
第13区計		285,438	100.0%		—
2	あかま 二郎	135,719	50.9%	100.0%	自由民主党
1	ふじい 裕久	107,608	40.4%	79.3%	民主党
3	藤原 正明	23,064	8.7%	17.0%	日本共産党
第14区計		266,391	100.0%		—
2	河野 太郎	186,770	63.9%	100.0%	自由民主党
3	勝又 恒一郎	83,490	28.6%	44.7%	民主党
1	西脇 たくや	22,139	7.6%	11.9%	日本共産党
第15区計		292,399	100.0%		—
3	かめい 善之	159,268	59.3%	100.0%	自由民主党
1	長田 ひでとも	87,991	32.7%	55.2%	民主党
2	ひやま 千里	21,504	8.0%	13.5%	日本共産党
第16区計		268,763	100.0%		—
2	河野 洋平	169,825	60.7%	100.0%	自由民主党
3	さかぐち 直人	89,901	32.1%	52.9%	民主党
1	鈴木 新三郎	20,117	7.2%	11.8%	日本共産党
第17区計		279,843	100.0%		—
3	やまぎわ 大志郎	111,787	53.7%	100.0%	自由民主党
1	ひだか 剛	77,877	37.4%	69.7%	民主党
2	むねた 裕之	18,345	8.8%	16.4%	日本共産党
第18区計		208,009	100.0%		—

表 神奈川県、比例代表区選挙結果(2005年9月11日執行)

届出番号	政党等名	得票数	得票率
2	自由民主党	2,030,524	43.3%
4	民主党	1,330,222	28.4%
1	公明党	548,757	11.7%
5	日本共産党	327,041	7.0%
6	社会民主党	275,692	5.9%
3	新党日本	171,962	3.7%
計		4,684,198	100.0%

表 神奈川県市町村別小選挙区選挙結果(1区-11区) (2005年9月11日執行)

党派名区分 開票区名	当日有権 者数	投票者数 (人)	投票率	自由民主党		民主党		公明党		日本共産党		社会民主党		新党日本		無所属		有効投票 得票数	無効票 無効数	無効率	党派名区分 開票区名		
				得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率					得票数	得票率
県計	7,079,406	4,748,564	67.08%	2,435,656	52.4%	1,564,457	33.6%	123,040	2.6%	361,175	7.8%	35,133	0.8%	28,498	0.6%	103,454	2.2%	4,651,413	97,151	2.0%	県計		
1区 候補者名 第1区計	413,952	282,349	68.21%	松本 純	161,702	58.3%	佐藤謙一郎	95,601	34.4%	高山 修	20,216	7.3%						277,519	4,830	1.7%	候補者名 第1区計		
	108,563	67,973	62.61%		40,439	60.7%		21,549	32.3%		4,667	7.0%						66,655	1,318	1.9%	中区		
	135,241	92,964	68.74%		51,276	56.2%		33,022	36.2%		7,020	7.7%						91,318	1,646	1.8%	磯子区		
	170,148	121,412	71.36%		69,987	58.5%		41,030	34.3%		8,529	7.1%						119,546	1,866	1.5%	金沢区		
2区 候補者名 第2区計	416,854	280,387	67.26%	菅 義偉	160,111	58.4%	大出 彰	91,723	33.5%	板谷みや子	22,284	8.1%						274,118	6,269	2.2%	候補者名 第2区計		
	71,538	47,118	65.86%		27,379	59.8%		14,908	32.6%		3,461	7.6%						45,748	1,370	2.9%	西区		
	164,438	107,093	65.13%		60,897	58.3%		34,671	33.2%		8,967	8.6%						104,535	2,558	2.4%	南区		
	180,878	126,176	69.76%		71,835	58.0%		42,144	34.0%		9,856	8.0%						123,835	2,341	1.9%	港南区		
3区 候補者名 第3区計	396,711	253,530	63.91%	小此木八郎	131,831	53.2%	加藤 尚彦	76,625	30.9%	大谷 努	21,810	8.8%		河野 敏久	12,537	5.1%		247,810	5,720	2.3%	候補者名 第3区計		
	215,096	136,049	63.25%		70,652	53.2%		40,575	30.5%		12,202	9.2%			6,193	4.7%		132,925	3,124	2.3%	鶴見区		
	181,615	117,481	64.69%		61,179	53.3%		36,050	31.4%		9,608	8.4%			6,344	5.5%		114,885	2,596	2.2%	神奈川区		
4区 候補者名 第4区計	326,976	232,223	71.02%	林 潤	119,618	52.5%	大石 尚子	78,326	34.4%	林 伸明	13,774	6.0%		高野 良裕	15,961	7.0%		227,679	4,544	2.0%	候補者名 第4区計		
	103,025	72,920	70.78%		36,863	51.5%		26,109	36.5%		4,155	5.8%			4,496	6.3%		71,623	1,297	1.8%	栄区		
	146,943	103,524	70.45%		51,649	50.9%		35,335	34.8%		6,557	6.5%			7,945	7.8%		101,486	2,038	2.0%	鎌倉市		
	49,966	36,195	72.44%		20,069	56.8%		11,072	31.3%		2,064	5.8%			2,119	6.0%		35,324	871	2.4%	逗子市		
	27,042	19,584	72.42%		11,035	57.3%		5,810	30.2%		997	5.2%			1,401	7.3%		19,243	341	1.7%	三浦郡葉山町		
5区 候補者名 第5区計	435,029	302,920	69.63%	坂井 学	151,617	51.1%	田中 慶秋	114,816	38.7%	大森 猛	30,407	10.2%						296,840	6,080	2.0%	候補者名 第5区計		
	211,254	147,451	69.80%		73,869	51.0%		56,175	38.8%		14,678	10.1%						144,722	2,729	1.9%	戸塚区		
	121,620	86,341	70.99%		43,270	51.1%		32,672	38.6%		8,675	10.3%						84,617	1,724	2.0%	泉区		
	102,155	69,128	67.67%		34,478	51.1%		25,969	38.5%		7,054	10.5%						67,501	1,627	2.4%	瀬谷区		
6区 候補者名 第6区計	372,012	255,742	68.75%			池田 元久	102,429	41.5%	上田 勇	123,040	49.9%	佐藤 清	21,146	8.6%				246,615	9,127	3.6%	候補者名 第6区計		
	165,587	113,676	68.65%				44,798	40.9%		55,228	50.5%		9,388	8.6%				109,414	4,262	3.7%	保土ヶ谷区		
	206,425	142,066	68.82%				57,631	42.0%		67,812	49.4%		11,758	8.6%				137,201	4,865	3.4%	旭区		
7区 候補者名 第7区計	385,181	259,769	67.44%	鈴木 恒夫	145,371	57.1%	首藤 信彦	92,721	36.4%	比嘉 常一	16,689	6.6%						254,781	4,988	1.9%	候補者名 第7区計		
	253,501	168,460	66.45%		93,860	56.8%		59,760	36.2%		11,577	7.0%						165,197	3,263	1.9%	港北区		
	131,680	91,309	69.34%		51,511	57.5%		32,961	36.8%		5,112	5.7%						89,584	1,725	1.9%	都筑区		
8区 候補者名 第8区計	363,051	255,984	70.51%	福田 峰之	74,399	29.4%	岩國 哲人	78,860	31.2%	山中 栄司	11,578	4.6%				江田 憲司	88,098	34.8%	252,935	3,049	1.2%	候補者名 第8区計	
	134,945	91,978	68.16%		28,662	31.6%		28,322	31.3%		5,090	5.6%						28,511	1,393	1.5%	緑区		
	228,106	164,006	71.90%		45,737	28.2%		50,538	31.1%		6,488	4.0%						59,587	1,656	1.0%	青葉区		
9区 候補者名 第9区計	281,203	189,496	67.39%	山内 康一	86,673	46.6%	笠 浩史	82,878	44.5%	鶴下 元	16,636	8.9%						186,187	3,309	1.7%	候補者名 第9区計		
	159,783	104,067	65.13%		48,913	47.9%		43,024	42.1%		10,173	10.0%						102,110	1,957	1.9%	多摩区		
	121,420	85,429	70.36%		37,760	44.9%		39,854	47.4%		6,463	7.7%						84,077	1,352	1.6%	麻生区		
10区 候補者名 第10区計	453,007	291,800	64.41%	田中 和徳	160,669	56.4%	計屋 圭宏	89,025	31.3%	笠木 隆	34,971	12.3%						284,666	7,134	2.4%	候補者名 第10区計		
	164,950	101,839	61.74%		58,275	58.6%		27,237	27.4%		13,973	14.0%						99,485	2,354	2.3%	川崎市		
	118,092	78,178	66.20%		43,280	57.5%		23,549	31.3%		9,464	12.6%						75,293	2,885	3.7%	幸区		
	169,965	111,783	65.77%		59,114	54.3%		38,239	35.1%		11,534	10.6%						108,887	2,896	2.6%	中原区		
11区 候補者名 第11区計	397,948	272,431	68.46%	小泉純一郎	197,037	73.2%	斉藤 勁	50,551	18.8%	瀬戸 和弘	11,377	4.2%				天木直人・三上誠三	10,349	3.8%	269,314	3,117	1.1%	候補者名 第11区計	
	355,740	244,604	68.76%		176,201	72.9%		46,155	19.1%		10,018	4.1%						9,493	3.9%	241,867	2,737	1.1%	横須賀市
	42,208	27,827	65.93%		20,836	75.9%		4,396	16.0%		1,359	5.0%						856	3.1%	27,447	380	1.4%	三浦市

表 神奈川県市町村別小選挙区選挙結果(12区-18区) (2005年9月11日執行)

区	党派名 開票区名	当日有権者数	投票者数(人)	投票率	自由民主党		民主党		公明党		日本共産党		社会民主党		新党日本		無所属		有効投票得票数	無効票 無効数	無効率	党派名 開票区名	
					得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率					得票数
12区	候補者名				桜井 前三		中塚 一宏				沼上 常生		阿部 知子										
	第12区計	356,138	236,259	66.34%	108,898	46.9%	75,865	32.7%			12,211	5.3%	35,133	15.1%					232,107	4,152	1.8%	候補者名	
	藤沢市	318,303	211,942	66.58%	97,590	46.8%	67,829	32.5%			10,706	5.1%	32,324	15.5%					208,449	3,493	1.6%	候補者名	
	高座郡寒川町	37,835	24,317	64.27%	11,308	47.8%	8,036	34.0%			1,505	6.4%	2,809	11.9%					23,658	659	2.7%	候補者名	
13区	候補者名				甘利 明		土田 龍司				近藤 知明												
	第13区計	443,977	292,315	65.84%	174,361	61.1%	88,170	30.9%			22,907	8.0%							285,438	6,877	2.4%	候補者名	
	大和市	176,998	114,304	64.58%	67,138	60.2%	35,215	31.6%			9,093	8.2%							111,446	2,858	2.5%	候補者名	
	海老名市	99,301	67,739	68.22%	40,863	61.6%	20,149	30.4%			5,273	8.0%							66,285	1,454	2.1%	候補者名	
	座間市	102,446	66,431	64.84%	38,220	58.9%	21,088	32.5%			5,557	8.6%							64,865	1,566	2.4%	候補者名	
	綾瀬市	65,232	43,841	67.21%	28,140	65.7%	11,718	27.4%			2,984	7.0%							42,842	999	2.3%	候補者名	
14区	候補者名				赤間 二郎		藤井 裕久				藤原 正明												
	第14区計	418,553	272,354	65.07%	135,719	50.9%	107,608	40.4%			23,064	8.7%							266,391	5,963	2.2%	候補者名	
	相模原市1	418,553	272,354	65.07%	135,719	50.9%	107,608	40.4%			23,064	8.7%							266,391	5,963	2.2%	候補者名	
15区	候補者名				河野 太郎		勝又恒一郎				西脇 拓也												
	第15区計	446,440	297,908	66.73%	186,770	63.9%	83,490	28.6%			22,139	7.6%							292,399	5,509	1.8%	候補者名	
	平塚市	207,233	135,088	65.19%	85,535	64.6%	36,815	27.8%			10,131	7.6%							132,481	2,607	1.9%	候補者名	
	茅ヶ崎市	186,157	125,471	67.40%	77,794	63.2%	36,120	29.3%			9,236	7.5%							123,150	2,321	1.8%	候補者名	
	中郡	53,050	37,349	70.40%	23,441	63.8%	10,555	28.7%			2,772	7.5%							36,768	581	1.6%	候補者名	
	大磯町	27,740	19,166	69.09%	12,286	65.1%	5,248	27.8%			1,332	7.1%							18,866	300	1.6%	候補者名	
	二宮町	25,310	18,183	71.84%	11,155	62.3%	5,307	29.6%			1,440	8.0%							17,902	281	1.5%	候補者名	
16区	候補者名				亀井 善之		長田 英知				松山 千里												
	第16区計	424,331	274,822	64.77%	159,268	59.3%	87,991	32.7%			21,504	8.0%							268,763	6,059	2.2%	候補者名	
	相模原市2	76,644	48,830	63.71%	25,324	52.8%	17,683	36.9%			4,616	9.6%							47,923	907	1.9%	候補者名	
	厚木市	174,022	110,236	63.35%	64,056	59.5%	35,371	32.8%			8,294	7.7%							107,721	2,515	2.3%	候補者名	
	伊勢原市	78,482	52,790	67.26%	32,060	61.9%	15,945	30.8%			3,756	7.3%							51,761	1,029	1.9%	候補者名	
	愛甲郡	35,859	23,163	64.59%	14,698	65.0%	6,240	27.6%			1,677	7.4%							22,615	548	2.4%	候補者名	
	愛川町	33,174	21,238	64.02%	13,430	64.8%	5,744	27.7%			1,555	7.5%							20,729	509	2.4%	候補者名	
	清川村	2,685	1,925	71.69%	1,268	67.2%	496	26.3%			122	6.5%							1,886	39	2.0%	候補者名	
	津久井郡	59,324	39,803	67.09%	23,130	59.2%	12,752	32.7%			3,161	8.1%							39,043	760	1.9%	候補者名	
	城山町	19,110	12,801	66.99%	7,205	57.4%	4,279	34.1%			1,064	8.5%							12,548	253	2.0%	候補者名	
	津久井町	23,809	15,573	65.41%	9,072	59.5%	4,856	31.8%			1,324	8.7%							15,252	321	2.1%	候補者名	
	相模湖町	7,860	5,553	70.65%	3,277	60.1%	1,825	33.5%			350	6.4%							5,452	101	1.8%	候補者名	
	藤野町	8,545	5,876	68.77%	3,576	61.8%	1,792	30.9%			423	7.3%							5,791	85	1.4%	候補者名	
17区	候補者名				河野 洋平		阪口 直人				鈴木新三郎												
	第17区計	424,037	285,906	67.42%	169,825	60.7%	89,901	32.1%			20,117	7.2%							279,843	6,063	2.1%	候補者名	
	小田原市	180,325	106,510	66.43%	62,698	60.2%	33,857	32.5%			7,646	7.3%							104,201	2,309	2.2%	候補者名	
	秦野市	129,854	84,633	65.18%	49,699	60.0%	26,909	32.5%			6,259	7.6%							82,867	1,766	2.1%	候補者名	
	南足柄市	35,765	25,397	71.01%	15,014	60.2%	8,173	32.8%			1,751	7.0%							24,938	459	1.8%	候補者名	
	足柄上郡	55,167	40,146	72.77%	24,047	82.2%	12,704	43.4%			2,521	8.6%							29,272	10,874	27.1%	候補者名	
	中井町	8,300	5,731	69.05%	3,652	64.6%	1,597	28.2%			377	6.7%							5,656	75	1.3%	候補者名	
	大井町	13,918	9,542	68.56%	5,891	63.1%	2,880	30.9%			562	6.0%							9,333	209	2.2%	候補者名	
	松田町	10,451	8,375	80.14%	5,141	63.0%	2,470	30.3%			543	6.7%							8,154	221	2.6%	候補者名	
	山北町	10,798	8,134	75.33%	4,596	57.5%	2,895	36.2%			504	6.3%							7,995	139	1.7%	候補者名	
	開成町	11,700	8,364	71.49%	4,767	58.4%	2,862	35.1%			535	6.6%							8,164	200	2.4%	候補者名	
	足柄下郡	42,926	29,220	68.07%	18,367	64.3%	8,258	28.9%			1,940	6.8%							28,565	655	2.2%	候補者名	
	箱根町	11,866	7,672	64.66%	5,061	67.8%	1,873	25.1%			530	7.1%							7,464	208	2.7%	候補者名	
真鶴町	7,646	5,638	73.74%	3,466	62.8%	1,651	29.9%			398	7.2%							5,515	123	2.2%	候補者名		
湯河原町	23,414	15,910	67.95%	9,840	63.1%	4,734	30.4%			1,012	6.5%							15,586	324	2.0%	候補者名		
18区	候補者名				山際大志郎		樋高 剛				宗田 裕之												
	第18区計	324,006	212,369	65.54%	111,787	53.7%	77,877	37.4%			18,345	8.8%							208,009	4,360	2.1%	候補者名	
	高津区	160,693	102,804	63.98%	54,492	54.0%	36,834	36.5%			9,501	9.4%							100,827	1,977	1.9%	候補者名	
	宮前区	163,313	109,565	67.09%	57,295	53.5%	41,043	38.3%			8,844	8.3%							107,182	2,383	2.2%	候補者名	
小計	党派名 開票区名				自由民主党		民主党		公明党		日本共産党		社会民主党		新党日本		無所属						
	指定市計	3,944,031	2,657,266	67.37%	1,221,023	46.9%	928,664	35.7%	123,040	4.7%	218,237	8.4%	32,324	1.8%	17,033	0.7%	93,105	3.6%	2,601,102	56,164	2.1%	指定市計	
	一般市計	2,824,172	1,877,716	66.49%	1,088,605	59.1%	571,438	31.0%			128,365	7.0%	32,324	0.7%	10,064	0.5%	10,349	0.6%	1,841,145	36,571	1.9%	一般市計	
	市部計	6,768,203	4,534,982	67.00%	2,309,629	52.0%	1,500,102	33.8%	123,040	2.8%	346,602	7.8%	32,324	0.7%	27,097	0.6%	103,454	2.3%	4,442,248	92,744	2.0%	市部計	
	郡部計	311,203	213,582	68.63%	126,026	60.3%	64,355	30.8%			14,573	7.0%	2,809	1.3%	1,401	0.7%			209,164	4,418	2.1%	郡部計	

表 神奈川県市町村別比例区選挙結果(市部) (2005年9月11日執行)

政党等名区分 開票区名	当日有権者 数(人)	投票者数 (人)	投票率	自由民主党		民主党		公明党		日本共産党		社会民主党		新党日本		有効投票		無効票	
				得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	無効票
県計	7,088,637	4,750,122	67.01%	2,030,524	43.3%	1,330,222	28.4%	548,757	11.7%	327,041	7.0%	275,692	5.9%	171,962	3.7%	4,684,198	65,924	1.39%	
横浜市	2,890,045	1,964,342	67.97%	836,035	43.1%	570,443	29.4%	211,783	10.9%	133,366	6.9%	113,342	5.8%	73,778	3.8%	1,938,747	25,595	1.30%	
鶴見区	215,389	136,071	63.17%	55,012	41.0%	36,840	27.5%	17,997	13.4%	11,611	8.7%	6,469	4.8%	6,263	4.7%	134,192	1,879	1.38%	
神奈川区	181,873	117,522	64.62%	49,517	42.7%	32,216	27.8%	13,362	11.5%	8,666	7.5%	6,445	5.6%	5,789	5.0%	115,975	1,547	1.32%	
西区	71,655	47,144	65.79%	20,597	44.4%	12,485	26.9%	5,830	12.6%	3,096	6.7%	2,614	5.6%	1,798	3.9%	46,420	724	1.54%	
中区	108,760	68,008	62.53%	30,866	46.1%	18,051	27.0%	7,543	11.3%	4,160	6.2%	3,788	5.7%	2,549	3.8%	66,957	1,051	1.55%	
南区	164,606	107,122	65.08%	45,415	43.0%	28,349	26.8%	14,422	13.7%	7,930	7.5%	5,668	5.4%	3,866	3.7%	105,650	1,472	1.37%	
港南区	181,153	126,247	69.69%	54,100	43.4%	35,978	28.8%	13,869	11.1%	8,874	7.1%	7,654	6.1%	4,316	3.5%	124,791	1,456	1.15%	
保土ヶ谷区	165,803	113,715	68.58%	47,016	42.0%	31,137	27.8%	15,266	13.6%	7,934	7.1%	6,669	6.0%	4,016	3.6%	112,038	1,677	1.47%	
旭区	206,630	142,077	68.76%	57,327	40.9%	40,831	29.1%	18,271	13.0%	9,851	7.0%	8,995	6.4%	4,940	3.5%	140,215	1,862	1.31%	
磯子区	135,392	93,006	68.69%	39,217	42.8%	27,036	29.5%	10,123	11.0%	6,281	6.8%	5,872	6.4%	3,191	3.5%	91,720	1,286	1.38%	
金沢区	170,408	121,461	71.28%	55,284	46.0%	33,612	28.0%	12,017	10.0%	7,748	6.4%	7,525	6.3%	3,980	3.3%	120,166	1,295	1.07%	
港北区	253,984	168,555	66.36%	73,442	44.1%	50,834	30.5%	15,446	9.3%	10,671	6.4%	9,546	5.7%	6,694	4.0%	166,633	1,922	1.14%	
緑区	135,118	91,999	68.09%	37,447	41.3%	28,273	31.2%	10,077	11.1%	5,965	6.6%	5,609	6.2%	3,192	3.5%	90,563	1,436	1.56%	
青葉区	228,676	164,117	71.77%	72,892	45.1%	54,899	34.0%	10,215	6.3%	8,566	5.3%	9,230	5.7%	5,894	3.6%	161,696	2,421	1.48%	
都筑区	131,882	91,350	69.27%	41,116	45.5%	28,334	31.3%	8,353	9.2%	4,692	5.2%	4,640	5.1%	3,305	3.7%	90,440	910	1.00%	
戸塚区	211,553	147,465	69.71%	62,607	43.0%	44,314	30.4%	13,702	9.4%	11,039	7.6%	8,931	6.1%	5,127	3.5%	145,720	1,745	1.18%	
栄区	103,186	72,962	70.71%	31,700	43.9%	21,836	30.3%	6,247	8.7%	4,491	6.2%	4,410	6.1%	3,489	4.8%	72,173	789	1.08%	
泉区	121,738	86,374	70.95%	35,684	41.9%	25,540	30.0%	9,503	11.2%	6,496	7.6%	5,030	5.9%	2,952	3.5%	85,205	1,169	1.35%	
瀬谷区	102,239	69,147	67.63%	26,796	39.3%	19,878	29.1%	9,540	14.0%	5,295	7.8%	4,247	6.2%	2,437	3.6%	68,193	954	1.38%	
川崎市	1,059,921	694,082	65.48%	285,628	41.7%	197,256	28.8%	82,362	12.0%	58,657	8.6%	37,480	5.5%	24,335	3.5%	685,718	8,364	1.21%	
川崎区	165,087	101,873	61.71%	40,292	40.1%	23,340	23.2%	16,903	16.8%	11,450	11.4%	5,174	5.2%	3,239	3.2%	100,398	1,475	1.45%	
幸区	118,230	78,213	66.15%	31,001	40.2%	20,272	26.3%	11,522	14.9%	7,590	9.8%	4,058	5.3%	2,682	3.5%	77,125	1,088	1.39%	
中原区	170,278	111,844	65.68%	46,886	42.5%	31,841	28.9%	12,396	11.2%	9,224	8.4%	5,881	5.3%	4,069	3.7%	110,297	1,547	1.38%	
高津区	160,930	102,862	63.92%	42,261	41.5%	29,706	29.2%	12,954	12.7%	8,161	8.0%	4,997	4.9%	3,767	3.7%	101,846	1,016	0.99%	
宮前区	163,690	109,653	66.99%	46,533	43.0%	33,000	30.5%	12,016	11.1%	7,396	6.8%	5,643	5.2%	3,695	3.4%	108,283	1,370	1.25%	
多摩区	159,994	104,119	65.08%	42,054	40.8%	31,553	30.6%	10,574	10.3%	8,980	8.7%	5,950	5.8%	3,881	3.8%	102,992	1,127	1.08%	
麻生区	121,712	85,518	70.26%	36,601	43.2%	27,544	32.5%	5,997	7.1%	5,856	6.9%	5,777	6.8%	3,002	3.5%	84,777	741	0.87%	
横須賀市	355,998	244,634	68.72%	129,605	53.7%	48,599	20.1%	32,818	13.6%	13,375	5.5%	11,100	4.6%	5,736	2.4%	241,233	3,401	1.39%	
平塚市	207,391	135,104	65.14%	55,168	41.6%	36,432	27.5%	19,307	14.6%	9,519	7.2%	7,743	5.8%	4,468	3.4%	132,637	2,467	1.83%	
鎌倉市	147,259	103,486	70.27%	47,429	46.3%	28,014	27.4%	7,267	7.1%	7,199	7.0%	6,575	6.4%	5,872	5.7%	102,356	1,130	1.09%	
藤沢市	318,789	212,005	66.50%	88,343	42.1%	60,282	28.7%	20,886	10.0%	13,319	6.4%	19,598	9.3%	7,293	3.5%	209,721	2,284	1.08%	
小田原市	160,463	106,534	66.39%	44,833	42.9%	28,806	27.6%	13,720	13.1%	7,084	6.8%	6,239	6.0%	3,809	3.6%	104,491	2,043	1.92%	
茅ヶ崎市	186,377	125,489	67.33%	51,651	41.6%	36,582	29.5%	14,451	11.6%	8,167	6.6%	8,339	6.7%	4,881	3.9%	124,071	1,418	1.13%	
逗子市	50,078	36,222	72.33%	17,894	50.3%	8,806	24.8%	2,884	8.1%	2,277	6.4%	2,080	5.8%	1,618	4.6%	35,559	663	1.83%	
相模原市	495,745	321,302	64.81%	128,065	40.5%	97,279	30.7%	39,767	12.6%	22,071	7.0%	17,994	5.7%	11,349	3.6%	316,525	4,777	1.49%	
相模原市1	419,101	272,478	65.01%	108,821	40.6%	83,223	31.0%	33,279	12.4%	18,245	6.8%	15,120	5.6%	9,661	3.6%	268,349	4,129	1.52%	
相模原市2	76,644	48,824	63.70%	19,244	39.9%	14,056	29.2%	6,488	13.5%	3,826	7.9%	2,874	6.0%	1,688	3.5%	48,176	648	1.33%	
三浦市	42,232	27,833	65.91%	15,312	56.2%	4,498	16.5%	3,915	14.4%	1,791	6.6%	1,125	4.1%	581	2.1%	27,222	611	2.20%	
秦野市	129,958	84,628	65.12%	35,832	43.1%	23,562	28.4%	9,948	12.0%	5,551	6.7%	5,193	6.3%	2,967	3.6%	83,053	1,575	1.86%	
厚木市	174,169	110,246	63.30%	47,454	43.8%	30,443	28.1%	13,955	12.9%	6,931	6.4%	5,481	5.1%	4,190	3.9%	108,454	1,792	1.63%	
大和市	177,154	114,336	64.54%	46,500	41.3%	32,171	28.5%	15,678	13.9%	7,573	6.7%	6,428	5.7%	4,354	3.9%	112,704	1,632	1.43%	
伊勢原市	78,551	52,803	67.22%	22,849	44.2%	14,343	27.8%	6,310	12.2%	3,386	6.6%	2,898	5.6%	1,872	3.6%	51,658	1,145	2.17%	
海老名市	99,387	67,753	68.17%	29,236	43.7%	19,334	28.9%	7,524	11.3%	4,413	6.6%	3,957	5.9%	2,383	3.6%	66,847	906	1.34%	
座間市	102,551	66,442	64.79%	26,995	41.2%	19,556	29.8%	8,187	12.5%	4,625	7.1%	3,752	5.7%	2,390	3.6%	65,515	927	1.40%	
南足柄市	35,797	25,400	70.96%	10,810	43.3%	6,789	27.2%	3,106	12.4%	1,705	6.8%	1,683	6.7%	891	3.6%	24,984	416	1.64%	
綾瀬市	65,288	43,840	67.15%	18,211	42.3%	11,251	26.1%	7,108	16.5%	2,529	5.9%	2,377	5.5%	1,557	3.6%	43,033	807	1.84%	

表 神奈川県市町村別比例区選挙結果(郡部) (2005年9月11日執行)

政党等名区分 開票区名	当日有権者 数(人)	投票者数 (人)	投票率	自由民主党		民主党		公明党		日本共産党		社会民主党		新党日本		有効投票		無効票	
				得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	無効票
三浦郡葉山町	27,088	19,593	72.33%	9,839	51.0%	4,770	24.7%	1,551	8.0%	1,065	5.5%	1,013	5.3%	1,042	5.4%	19,280	313	1.60%	
高座郡寒川町	37,858	24,318	64.23%	9,414	39.3%	6,526	27.3%	3,712	15.5%	1,690	7.1%	1,905	8.0%	691	2.9%	23,938	380	1.56%	
中 郡	53,110	37,362	70.35%	16,203	44.2%	10,414	28.4%	3,673	10.0%	2,499	6.8%	2,598	7.1%	1,293	3.5%	36,680	682	1.83%	
大磯町	27,773	19,175	69.04%	8,383	44.6%	5,176	27.5%	1,995	10.6%	1,198	6.4%	1,362	7.2%	700	3.7%	18,814	361	1.88%	
二宮町	25,337	18,187	71.78%	7,820	43.8%	5,238	29.3%	1,678	9.4%	1,301	7.3%	1,236	6.9%	593	3.3%	17,866	321	1.76%	
足柄上郡	55,207	40,151	72.73%	17,507	44.6%	11,016	28.1%	4,651	11.9%	2,265	5.8%	2,416	6.2%	1,374	3.5%	39,229	922	2.30%	
中井町	9,305	5,733	61.61%	2,575	45.7%	1,504	26.7%	760	13.5%	351	6.2%	263	4.7%	185	3.3%	5,638	95	1.66%	
大井町	13,930	9,544	68.51%	4,212	44.9%	2,573	27.4%	1,204	12.8%	486	5.2%	564	6.0%	340	3.6%	9,379	165	1.73%	
松田町	10,455	8,375	80.11%	3,742	46.5%	2,217	27.6%	860	10.7%	477	5.9%	457	5.7%	294	3.7%	8,047	328	3.92%	
山北町	10,803	8,132	75.28%	3,511	44.0%	2,359	29.6%	800	10.0%	468	5.9%	573	7.2%	260	3.3%	7,971	161	1.98%	
開成町	11,714	8,367	71.43%	3,467	42.3%	2,363	28.8%	1,027	12.5%	483	5.9%	559	6.8%	295	3.6%	8,194	173	2.07%	
足柄下郡	42,969	29,225	68.01%	13,128	45.8%	7,048	24.6%	4,199	14.6%	1,780	6.2%	1,393	4.9%	1,120	3.9%	28,668	557	1.91%	
箱根町	11,886	7,673	64.55%	3,557	47.3%	1,713	22.8%	1,224	16.3%	478	6.4%	268	3.6%	278	3.7%	7,518	155	2.02%	
真鶴町	7,651	5,640	73.72%	2,391	43.0%	1,414	25.4%	910	16.4%	357	6.4%	260	4.7%	233	4.2%	5,565	75	1.33%	
湯河原町	23,432	15,912	67.91%	7,180	46.1%	3,921	25.2%	2,065	13.2%	945	6.1%	865	5.6%	609	3.9%	15,585	327	2.06%	
愛甲郡	35,893	23,183	64.59%	9,757	42.9%	5,347	23.5%	4,562	20.0%	1,460	6.4%	869	3.8%	767	3.4%	22,762	421	1.82%	
愛川町	33,207	21,257	64.01%	8,898	42.6%	4,914	23.5%	4,246	20.3%	1,350	6.5%	773	3.7%	692	3.3%	20,873	384	1.81%	
清川村	2,686	1,926	71.71%	859	45.5%	433	22.9%	316	16.7%	110	5.8%	96	5.1%	75	4.0%	1,889	37	1.92%	
津久井郡	59,359	39,810	67.07%	16,826	43.0%	10,655	27.2%	5,433	13.9%	2,744	7.0%	2,114	5.4%	1,351	3.5%	39,123	687	1.73%	
城山町	19,124	12,809	66.98%	5,294	41.9%	3,531	28.0%	1,694	13.4%	876	6.9%	746	5.9%	485	3.8%	12,626	183	1.43%	
津久井町	23,815	15,570	65.38%	6,299	41.1%	4,162	27.2%	2,390	15.6%	1,157	7.6%	783	5.1%	524	3.4%	15,315	255	1.64%	
相模湖町	7,869	5,554	70.58%	2,574	47.2%	1,490	27.3%	606	11.1%	325	6.0%	289	5.3%	169	3.1%	5,453	101	1.82%	
藤野町	8,551	5,877	68.73%	2,659	46.4%	1,472	25.7%	743	13.0%	386	6.7%	296	5.2%	173	3.0%	5,729	148	2.52%	
指定市計	3,949,966	2,658,424	67.30%	1,121,663	42.7%	767,699	29.3%	294,145	11.2%	192,023	7.3%	150,822	5.7%	98,113	3.7%	2,624,465	33,959	1.28%	
一般市計	2,827,187	1,878,056	66.43%	816,187	44.1%	506,747	27.4%	226,831	12.3%	121,515	6.6%	112,562	6.1%	66,211	3.6%	1,850,053	28,003	1.49%	
市部計	6,777,153	4,536,480	66.94%	1,937,850	43.3%	1,274,446	28.5%	520,976	11.6%	313,538	7.0%	263,384	5.9%	164,324	3.7%	4,474,518	61,962	1.37%	
郡部計	311,484	213,642	68.59%	92,674	44.2%	55,776	26.6%	27,781	13.2%	13,503	6.4%	12,308	5.9%	7,638	3.6%	209,680	3,962	1.85%	

ドイツ総選挙の結果と大連立政権のゆくえ

早稲田大学社会科学部
教授 坪郷 實

1. 「真実の瞬間」ードイツ連邦議会選挙

1) 「真実の瞬間」

今回のドイツの総選挙は予想が難しい選挙であった。世論調査では、早い時期には野党がかなり優勢であったが、選挙が近づくに従って与党側が少しずつ盛り返してきた。このため、最終的な結果としてどのような政権ができるのか、そしてどのような組み合わせが多数を獲得するののかという予測が困難であった。このことから、テレビを通じて世論調査機関による選挙の結果予測が出た 2005 年 9 月 18 日の 18 時を「真実の瞬間」と呼んでいる。

選挙結果は、CDU・CSU(キリスト教民主・社会同盟)が 35.2%、SPD(ドイツ社会民主党)が 34.2%、FDP(ドイツ自由民主党)が 9.8%、左派党(東の地域政党である民主社会主義党と西の「雇用と社会的公正のための選挙オー

ルタナティブ」による選挙同盟)が 8.7%、緑の党が 8.1%の票をそれぞれ獲得した。CDU・CSU の結果は、世論調査による予測よりも 6%から 7%下回った。その一方で、SPD は世論調査の予測を若干上回った結果、CDU・CSU との差が 1%程度まで縮まった。

選挙戦では、7年間続いた現政権である「赤一緑」(SPD と緑の党の連立政権)は、第 2 期になってから進めた「アジェンダ 2010」という包括的な構造改革を中心にして政権の継続を訴えた。しかし、これは負担を伴う改革であったために SPD の支持者には不満であり、政権の支持率が下がっていた理由といえる。また、7 年前にシュレーダー政権ができたときの最大の課題である 10%(400 万人)を超える失業者を半減させるという公約が実現されなかったことがある。これを解決するために構造改革を進めようとしたが、短期的に成果が出るには至らなかった。このため、多数の

表 1 ドイツ連邦議会選挙(得票率と議席数)

	2005年				2002年			
	全	議席数	西	東	全	議席数	西	東
投票率	77.7%	(614)	78.5%	74.3%	79.1%	(603)	80.6%	72.8%
SPD	34.2%	222	35.1%	30.4%	38.5%	251	38.3%	39.7%
CDU/CSU	35.2%	226	37.4%	25.3%	38.5%	248	40.8%	28.3%
FDP	9.8%	61	10.2%	8.0%	7.4%	47	7.6%	6.4%
Die Linke	8.7%	54	4.9%	25.3%	4.0%	2	1.1%	16.9%
90年同盟・緑の党	8.1%	51	8.8%	5.2%	8.6%	55	9.4%	4.7%

出所：2002 年の左派党は、PDS の票。http://www.bundeswahlleiter.de/など。

支持が得られなかった。

他方、もう1つの政権選択肢であった「黒一黄」(CDU・CSU と FDP)いわゆる「保守リベラル」は、「より負担の多いネオリベラル」の路線を掲げて選挙に登場した。しかし、結果的には、「赤一緑」も「黒一黄」も多数派をとれなかった。選挙前に有権者に提示された政権の組み合わせがどちらとも多数派をとれなかったことが、ドイツ総選挙後の混乱の始まりである。有権者の意思がどちらにも多数派を与えなかったということは、有権者はどちらにも政権を託さないという選択をしたといえる。そこで、選挙結果を受けて政党が多数派工作を行って、有権者に対して支持が得られるような新しい政権の枠組みを出すという課題を各政党が負ったのである。

ヨーロッパでは、まだ左翼・右翼という軸が根強く残っている部分があり、「左派陣営 (SPD、緑の党、左派党)」対「保守リベラル(ブリューガー)陣営 (CDU・CSU、FDP)」という構図がある。この2つの陣営で投票結果を見てみると、左派陣営が51%強、保守リベラル陣営が48%であり、左派陣営が優勢であった。左派の票の中には、シュレーダーが進めた構造改革そのものに反対するグループを含んでいるため、今回、左派3党による左派連立は困難であった。

2) なぜ選挙が1年早められたのか？

2005年5月22日にノルトライン＝ヴェストファーレン州の州議会選挙があった。この州は、人口が最大の州であり、この州で多数を獲得するかどうかは全国的な選挙に影響を及ぼすといわれている。この州の政権は、「赤一緑」連立の州政府であったが、今回の選挙で「赤一緑」は敗北することとなった。かつては、州レベルでの政府は「赤一緑」が多くあったが、その後ほとんどの州議会選挙で負け続け、ノルトライン＝ヴェストファーレン

州選挙での敗北により、州における「赤一緑」の連立政権はなくなった。この結果が、シュレーダー政権の再選が難しくなったことを明確にした。通常は、州レベルでの選挙は、全国レベルの選挙とは違うので、今まで州議会選挙で負けたときでもシュレーダーは連邦レベルの構造改革は続けると述べ、これが失業削減のために必要であるとしていた。しかし、今回ばかりは連邦レベルの政治に関連づけ、シュレーダーと SPD の党首であったミュンテフェリングは連邦議会選挙を1年早めて行うことを決定した。

その理由についての議論はさまざまあるが、いまだに明確な回答はない。シュレーダーはメディア首相と名付けられているように、メディアをたくみに使い政権運営を行ってきた。今、どのような政策を出せば有権者が目を向けるか、どのような行動をとれば有権者の支持が上がるかということをやってきた。メディア首相の真髄として独特な政治的直感で判断してきたのではないかとされている。

さまざまな議論の中で2つくらいの説がある。1つは、SPD が内紛を繰り返してきた政党であることである。SPD には、保守的な伝統派、左派、そして若手のグループの3つぐらいに分かれる潮流があり、これらの意見のとりまとめが困難である。シュレーダー政権の路線と SPD 内部の政治路線との間の合意が明確に作られていなかったために、この7年間の間に衝突を繰り返してきた。9月に総選挙を行うといわなければ、SPD 内で選挙の結果をめぐる論争の収拾がつかなくなることが予測された。その結果、有権者や次の選挙に悪い影響を与えることが考えられたため、選挙を早めることで論争を完全に封じ込めることができたといわれている。

もう1つは、野党の側の CDU・CSU は、まだ首相候補も決定していなかったため、準備が十分でないうちに選挙をしてしまおうと

いうことである。ドイツでは議会の解散権がないので、議会で与党自らが首相の信任案を否決するという手段に訴え、大統領が議会解散を行った。

2. シュレーダー政権はなぜ窮地に陥ったのか？

1) 「改革の困難さ」、および SPD 党内の問題
シュレーダー政権がなぜ窮地に陥ったのかという議論は 2 点ほど指摘されている。第 1 点は、1970 年代におけるシュミット社会リベラル連立政権 (SPD と FDP) の時に称揚された「モデル・ドイツ」といわれる成功した社会モデルが硬直化し、政党や利益団体や官僚制という、いわゆる既得権益や既成勢力によるブロックで、改革ができない状態があり、改革の停滞が生じているからである。その結果として、高失業や財政赤字がある。

EU における「ユーロ安定のための協定」の中に、加盟国の財政赤字は国内総生産の 3% 以内にとどめるという規定があるが、それをこの数年実現できないでいる。実際は罰則があり (現在は猶予されている)、3% 以内になければ罰則が適用されることが問題となっている。経済も低迷し、成長率が 0.6% (EU 平均は 1.2%) と低く、失業率は 2005 年初に失業扶助と生活扶助の統合を行った結果、統計上の失業者数が増えた。一時期は 500 万人を超え、現在は 460 万人 (年平均で 487 万人) となっているものの、失業率は 10% 程度と高い水準となっている。このような「モデル・ドイツ」の構造的拘束性がいわれている。

2 点目は、SPD の新しいアイデンティティの希求という問題がある。SPD が 1998 年の選挙で政権を獲得したときのスローガンは、イノベーションと公正という 2 つの言葉の組み合わせであった。イノベーションとは、技術革新などを重視しながら政治、経済、社会

を刷新することによって経済を活性化し、失業を削減するということである。公正とは、SPD の基本理念である社会的公正を強調し、社会保障を重視するということである。これは、当時の SPD の党首であったラフォンテーヌが「社会的公正」を代表し、首相候補者シュレーダーがイノベーションを代表するという 2 頭立てによる勝利であった。しかし、それは一つのアイデンティティとして SPD の中に定着していたものではなかった。政権発足後すぐにラフォンテーヌとシュレーダーの間に摩擦が生じ、ラフォンテーヌはそれを契機に政治家から引退をした。彼は、今回の選挙で新たな左派党の代表者の一人として復活している。このように、SPD 内でプラグマティックな改革路線を目指す現代化論者のシュレーダーと社会的公正を重視する路線の対立が続いていた。その意味では、シュレーダー政権が実現したときにどのような路線で行くかという決着が党内でついていなかったといえる。イギリスの労働党のブレアは、党綱領の改定なども含めて政権の基本的路線の準備をして政権についたといわれているが、ドイツでは政権の準備が十分でなかった。政権が発足してから、新しい基本綱領案の作成が行われてきたが、まだ完結しておらず、SPD の新しいアイデンティティの希求の途上にあるといえる。

2) 社会民主主義の「第三の道」の意義

以上の 2 点は、ドイツにおける改革の困難さと SPD の党内における問題であるが、3 点目の論点として、社会民主主義の「第三の道」 (現在はこの言葉は使われていない) の意義について触れることとする。シュレーダー政権がこの 7 年間で取り組んだ重要な実績を考えると、一つは経済政策で供給サイドと需要サイドの手法を組み合わせながら「モデル・ドイツ」の構造改革を行うための路線を敷い

たことがあげられる。しかし、これはまだ成果を上げるには至っていない。メルケル大連立政権になっても構造改革の路線は大きく変わることはないだろうと考えられる。

二つ目は、「エコロジー的文化的プロジェクト」である。この内容は、第1に内務政策、法務政策の領域であるが、様々な権利の拡大のための改革を行ったことである。まず、従来の血統主義を出生地主義に転換し、二重国籍を限定的に容認する国籍法の改革が行われた。さらに、「同性のパートナー」への差別を禁止する法律が成立した。また、移民法が制定された。

第2に、エネルギー政策や環境政策において脱原発の決定を行い、再生可能エネルギーの促進をしたことである。また、エコ税制改革として環境税の導入を実現した。第3に、大学教育の改革に着手した。以上が、シュレーダー政権における特徴的な成果である。

さらに、シュレーダー政権期に、連邦議会において「市民活動の将来」調査委員会が設置され、ドイツにおける市民活動、市民社会組織について包括的な調査報告と市民活動の促進のための勧告(2002年)が出されている。このことも含めて、「第三の道」に意義があるとするならば、社会民主主義が「市民社会」という課題を再発見したことに大きな意味があるといえる。

3. 「センセーション選挙」「カオス選挙 —誰にも権力がない」

1) ドイツの選挙制度と 2005 年総選挙の特徴

ドイツの選挙制度は、比例代表制が基本であり、議席の配分は比例代表選挙で政党が全国で獲得した得票率で決まる。小選挙区制は半分の議員を決めるのに使い、残りの議員は州単位の候補者リストによって決められる。

これは比例代表選挙が政党を選ぶ制度であるため、小選挙区を組み合わせることによって誰を当選させるのかということについて有権者の選択ができるようにしたのである。日本では並立制、併用制が議論となるが、ドイツではミスリーディングである。比例代表選挙は、民意の反映で優れているとこれまでの議論で言われてきた。

ドイツの選挙キャンペーンの3点セットは、首相候補は誰なのか、選挙マニフェストはどのようなものか、連立方式についてである。首相候補を名乗るのは、2大政党だけである。小さい政党は首相になるチャンスはなく、首相候補とは通常言わない。

マニフェストは、イギリスの労働党の影響を受けており、SPDのマニフェストは今回10の目標を掲げている。CDU・CSUでは、政府綱領・政権綱領という名称でやっている。ドイツでも財源問題が大きい。政党間の論争でそれぞれの政策について議論するときには、その財源が保証されていなければ実現不可能であるという議論が行われる。年金政策、医療改革、税制などについて具体的な改革案が各政党の選挙マニフェストに書かれているが、それぞれ長いものであるため、有権者は新聞に掲載される政党の政策の比較表を読んで判断している。

選挙前に連立方式について選択肢が明示されたことが今回の特徴である。従来は、必ずしも政権の組み合わせを明示しないで選挙が行われることもあった。その際は、2大政党のどちらが第一党になるかの競い合いが基本である。小さい政党は、どちらかといえばSPDと組むという言い方をするときもあれば、できる限り票を伸ばすことにより連立を可能にしようとするため連立方式を明示しない選挙もある。今回は、「赤—緑」を継続するのか、野党による「黒—黄」の新たな保守リベラルが政権交代を果たすのかというように、

政権選択肢が明示された。

2) 選挙結果の特徴

日本でも言われていることであるが、「政党支持なし層」がドイツでも増大していることが重要である。選挙のない時期には政党支持なし層が3割から4割程度であるといわれているが、選挙が近づくに従って政党支持なし層が縮小していき、選挙当日に支持政党を決める層もかなりいる。このことから、2大政党の支持率が低下してきている。緑の党が登場する前は、2大政党は合わせて90%近い票をとった時期があった。現在は、前回から7%低下し、2大政党を合わせても70%を下回る状況となっている。これらのことが、今回FDP、緑の党、左派党が票を集めた理由となっている。

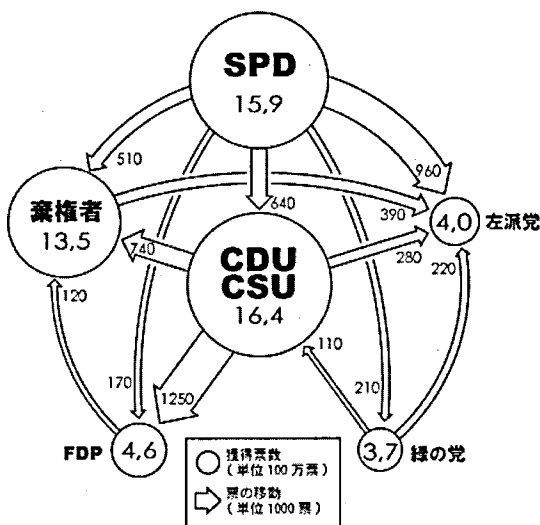
前回の選挙との比較で、政党間の票の移動（世論調査機関インフラテスト・ディマップによる）をみると（図1参照）、SPDに前回投票した人では、64万人がCDU・CSUに、96万人が左派党に移動、21万人が緑の党に移動、51万人が棄権した結果、SPDは票を

減らしている。CDU・CSUに前回投票した人は、125万人がFDPに移動、28万人が左派党に移動、74万人が棄権した結果、CDU・CSUも票を減らしている。このように2大政党の票が減ったことが分かる。

各政党への政策イメージについてみると、SPDの支持者では、社会的公正を重要する人が45%と高く、経済政策は27%と低い。一方で、CDU・CSUの支持者は経済政策が53%と最も高く、社会的公正は17%と低い。緑の党は、環境政策が51%、社会的公正が41%と高い値を示している。FDPは経済政策が56%、左派党は社会的公正が60%と高い値を示している。これは、改革は必要であるが、シュレーダーの構造改革は負担を伴う改革であるため、社会的公正が実現しないという批判勢力が左派党を選んだといえる。

また、初めての投票者は、SPDに投票した人が39%と多いことが分かる。つまり、SPDは選挙の最終局面で政党支持なし層から得票し、その上初めての投票者から支持を得たという特徴がある。そして、世論調査によると、シュレーダーとメルケルを首相として直接選ぶならば、シュレーダーが53%、メルケルが39%と、政党支持では野党の方が高かったにもかかわらず、首相候補では与党の方の優勢が続いていた。1998年にSPDが政権を獲得したときには、多くの有権者は政権交代があるだろうという予測をしていたが、今回政権交代があると考えた有権者は、5割を少し超えた程度であり、政権交代への勢いがなかった。

図1 政党間の票の移動



出所: Focus, Wahl-Spezial/2005, S.22
ARD(第1テレビ)のためのインフラテスト、
ディマップによるもの

4. 大連立政権への道

1) 3つの選択肢

選挙前には、「赤-緑」か、「黒-黄（保守リベラル）」か、それらがうまくいかない場合には大連立という連立の組み合わせが議論さ

れていた。その3つの政権でどれが望ましいかという世論調査によると、大連立が相対的に多かった。しかし、選挙戦では「赤-緑」か、「保守リベラル」か、という対立で行われたため、選挙結果によって大連立をすぐに組むわけにはいかなかった。SPDとCDU・CSUの差がわずかであったことから、シュレーダーは首相を降りると言わなかった。シュレーダーは、CDUとCSUが姉妹政党であるが、別の政党であるため、SPDが第一党であり、SPDがリーダーシップをとることに問題がないと主張し、「赤-緑」から降りなかった。他方、メルケルは多数派をとれなかったので、シュレーダー主導で政権を作る選択肢があると強力に主張した。

このように、首相が誰になるかが分からないまま、各党は連立相手を決める予備交渉に入っていた。その中で3つの選択肢が議論された。

第1は、交通信号連立「赤-緑-黄」で、「赤-緑」に野党のFDPを加える方式である。しかし、FDPは「赤-緑」を批判して選挙戦をしたため、シュレーダーはFDPの党首が替われば自分たちと組めるという駆け引きをした。政策的な項目では、外交政策やメルケルの主張した付加価値税の引き上げに対する反対では共通している。その他では政策調整が必要である。

第2は、ジャマイカ連立(黒交通信号)「黒-黄-緑」で、「黒と黄」連立に、緑の党を加える方式である。これは、外交政策と補助金の削減については一致できる。

第3は、大連立「黒-赤」という方式である。年金、トルコのEU加盟問題以外の外交政策、連邦制改革では共通項がある。

この3つの選択肢の内、一番可能性があるといわれていたのは「大連立」である。「赤-緑-黄」ではFDP、「黒-黄-緑」では緑の党という小さな政党が「連立しない」と言っ

たため不可能になった。3つの選択肢が議論されたことにより、今回の選挙では無理かもしれないが、次回の選挙では十分に可能性のある連立の選択肢を提示するという準備作業になった。次回の選挙以降、もしくは大連立が破綻したときの選択肢を増やす議論であった。

2)さらなる可能性

さらなる可能性として、第1に「黒-黄」ないし「赤-緑」で少数政権を組む方式もある。デンマークなどの北欧諸国では、少数政権がこれまで結成されており、ドイツでも可能ではないかという議論がある。

第2は、「赤-赤-緑」の連立という左派陣営の3政党の連立である。しかし、すでに見たように、左派党はシュレーダーの構造改革路線に反対であることから、シュレーダーは左派党とは組まないと明言したため現在可能性はないが、「10年後くらいにはできるかもしれない」という議論もある。

第3は、「黒-緑」という方式である。これは前回は議論された方式であるが、まだ現実味がなかった。CDUの有力議員のショイブレが今回、緑を加えた黒交通信号連立を推していたこともあり可能性が出てきている。シュレーダー政権期の「エコロジー的文化的プロジェクト」の多くの主導権をとったのは緑の党であり、SPDと緑の党との組み合わせでこのプロジェクトができたといえる。しかし、環境税導入や移民法(多文化社会)の制定について、CDU・CSUはポピュリズム的な反対キャンペーンをしたが、「黒-緑」の連立を行うことによってCDU・CSUにも「エコロジー的文化的プロジェクト」を定着させる契機になるのではないかと、そしてドイツの政党システム自体が大きく変わる局面に来ているので、このような政権も必要なのではないかという議論が行なわれている。

3) 予備交渉の結果

以上のような議論を背景に、予備交渉が3週間行われた。なぜ3週間かかったのかというと、首相が誰になるかが決定しなかったからである。最後までシュレーダーは首相になることを主張していた。SPDが大連立の中で有利な状況に立つために、シュレーダー首相は譲らなかったのである。一部には、4年内の2年間をシュレーダーがやり、その後の2年間をメルケルがやればよいという提案（イスラエル方式）も出た。最終的には、メルケルが首相となった。

しかし、閣僚ポストの配分では、CDU・CSUが首相、閣僚を合わせて8人（女性3人）、SPDが同数の閣僚8人（女性3人）を獲得した。SPDは、労働社会相、外務相、財務相、環境相などの有力ポストを確保した。これらは、重要な省であると共に、高失業や財政赤字という困難な課題を抱えているポストである。他方、CDU・CSUは、経済・将来テクノロジー相、家族・高齢者・女性・青年相、教育・研究相というドイツの将来性に関する省を確保し、未来志向の政策の展開が可能である。

5. 大連立のゆくえと社会民主党

1) 連立交渉の結果

連立交渉が5週間ほどかかって、連立協定「ドイツのために共同で」が結ばれた。この協定には、今後4年間に行う政権政策が盛り込まれている。大きな課題としては大量失業の削減、財政再建、社会保障制度の改革の3点をあげている。さらに、両政党の政権マニフェストに盛り込まれた政策について、政権を組むにあたって調整が行われ、年金の受給年齢の引き上げ（65歳から67歳に、2012年から始まり2035年までに）、付加価値税の

引き上げ（2007年に16%から19%に引き上げ）、富裕税の導入、研究開発費を2010年までに国内総生産の3%に増大させることなどが含まれている。新しく課題が出ればそのたびに調整することとなるが、医療改革については、SPDとCDU・CSUで対立する政策であったため決着は先延ばしとなった。

この連立交渉の中で特徴的であるのは、メルケル首相の指導力が発揮された形跡が外に出てきていないことである。これは、実力を貯めておいて、政権についたときに指導力を発揮しようとしているのか、指導力がないのか、どちらであろうか。大連立政権は2大政党によるものであるため、政策調整は厳しく、紛争が生じたときにリーダーシップを発揮できるのかという疑問が生じている。

11月18日に正式な連立協定の締結が行われ、22日に初の女性、東ドイツ出身のメルケルを首相に選出し政権が発足した。メルケル新首相は、コール政権の時の環境大臣をやった自然科学者だが、コール政権後の政治献金問題でシュヨイブル党首が辞めた後、党首となっている。

2) 大連立政権のゆくえと各政党の今後の戦略

大連立のゆくえとして、2大政党が協力して改革を進め、失業問題、財政再建などで成果を上げることができれば、4年間続くであろうと考える。その一方で、2大政党による政策調整は困難であることから、改革の停滞が生じ、成果が上がらないなら、連立の組み替えもしくは新選挙の必要があるという指摘もある。

また、民主主義にとって大連立政権は望ましくないという議論がドイツではある。常に強力な野党がいて政権をチェックすることが民主主義を円滑にする方法である。大連立では強力な野党がいなくなるため、望ましくな

いといえる。

「エコロジー的文化的プロジェクト」との関係で、脱原発や移民法などで CDU・CSU が反対キャンペーンをしたが、メルケル新政権では脱原発を変えることにはなっていない。緑の党は、環境政策や食の安全問題などで重要な役割を果たすのではといわれている。

CDU・CSU はネオリベラル路線を主張し、付加価値税の値上げを財源にして企業の負担軽減に徹底的に取り組むことを主張した。今回の連立政権の協定では、それが不十分であるという経済界の批判もある。それと同時に、シュレーダー政権で企業減税をすでにかなり行っており、さらにやるのかという意見がある。また、このネオリベラル路線に対しては、党内からも労働者を支持基盤とする社会委員会から経済政策と社会保障政策のバランスが取れていないことが、今回政権を取れなかった原因ではないかという批判がある。SPD のある論者は、大連立政権による連立協定は、CDU・CSU の SPD 化ではないかという評価をしている。CDU・CSU の今後の路線のあり方を明確にしなければ次の選挙は戦えないであろうと考える。

SPD は、社会的公正と経済活性化、社会保障政策の安定化を統合していかなければならない。SPD にとっては、市民社会強化戦略という新しい政策が必要とされているという議論もある。今回、連立交渉の過程の中で SPD の党首であったミュンテフェリングが左派の反乱にあい党首を辞めることになったため、新党首としてプラチェックが選出された。プラチェックは、大連立州政府の州首相であるが、今年の州選挙(ブランデンブルグ州)において唯一、州首相の座を維持している。また、メルケルと同様に東ドイツの出身であることも興味深い。

SPD において新しい市民社会強化戦略の議論があるのは、党員が減っていることから、

ネットワーク型政党という新しい組織・運動論の必要性があるためである。これは、例えば、2年間の期限付きの党員制や、党員になってすぐに党のプロジェクトや集会に参加できる制度のように、従来の組織政党と市民を緩やかなネットワークで結ぶ運動論である。市民社会の現実と政党の間に乖離が生じているため、それを埋めるために、政党と市民活動のネットワークを形成する新しい組織論、運動論が試みられている。

6. 日本とドイツの総選挙—比較・選挙政治

日本とドイツの選挙制度は、それぞれ小選挙区制と比例代表制の併用制か、比例代表制か、という制度の違いがある。比例代表制は民意を正確に反映するし、小選挙区制はしばしば得票結果と議席数が大きく乖離するという特徴がある。日本の今回の選挙をみると、自民党も次の選挙では大敗する可能性がある。選挙制度の改革は難しい面もある。ドイツでは、1960年代に CDU・CSU が小選挙区制を導入しようとした。この時は、FDP が税制改革をめぐり意見が分かれ政権から離脱したため、大連立による新しい政権を作らなければならなくなった。CDU・CSU は、この大連立政権期に小選挙区制を導入しようとしたが、結局、連立相手の SPD の反対でうまくいかなかった。大連立の時に小選挙区制をやらなくてよかったというのが現在の議論である。

また、日本においては、選挙の時に、今回の小泉劇場のように「郵政民営化」しか議論されないような状況を変えていく必要がある。選挙を政策論争の場にするためには、首相候補、選挙マニフェスト(財源、実現のための工程表など)、連立方式の提示が重要であり、さらにメディアの役割が大きいのではないかと考える。

建物の安全と行政責任 — 対震強度偽装問題の法構造と実態を考える検討会 —



2005年12月21日(水)午後2時から5時まで自治労会館(東京都千代田区六番町)に於て、「建物の安全と行政責任—対震強度偽装問題の法構造と実態を考える検討会—」が開催された。この検討会は、広がりを見せる「耐震強度偽装問題」について、その法的な問題点および、建築審査の実態と課題等について検討することを目的にして、(社)神奈川県地方自治研究センターはじめ東京・関東近県の自治研センターお

よび(財)地方自治総合研究所などが共催して行われた。

会は、今村都南雄地方自治総合研究所長のあいさつの後に、「指定検査機関の責任と法構造」と題して千葉大学法科大学院の鈴木庸夫教授が法構造について、小賀野晶一教授が民事責任の観点からそれぞれ解説が行われ、次いで「建物の安全と建築確認の実態」について(株)みなと都市整備公社専務の武田慎次氏から報告が行われた。

参加者は、緊急なよびかけでしかも年末にもかかわらず約90名が参加し、熱心に講演に耳を傾け、メモをとる姿が目だった。建築にかかわる偽装問題は、そこに住む住民の命と安全に直接かかわる問題であると同時に、自治体にとっては、建築確認行政そのものの信頼を根底から揺るがす問題であり、法的責任あるいは補償問題にいたる様々な角度からの検討が必要な課題であるだけに、今後とも必要な調査・研究を続けていくことが確認された。

2006年度(社)神奈川県地方自治研究センター年次総会のお知らせ

2006年度神奈川県地方自治研究センター年次総会を次のとおり開催します。会員の皆さまには別途ご通知いたしますので、ご参加お願いいたします。

記

1. 日時 3月8日(水)午後2時から5時まで
2. 場所 神奈川県地域労働文化会館
(横浜市南区高根町1-3・横浜市営地下鉄阪東橋駅下車)
3. 内容 2006年度(社)神奈川県地方自治研究センター年次総会および記念講演
4. お問い合わせ (社)神奈川県地方自治研究センター 勝島まで
電話) 045-251-9721 E-mail jk001@gpn.co.jp

編集後記

本号は、2005年11月18日に開催されました2005年度自治研センター定例研究会の報告が中心となりました。各論文は、研究会の講演録をもとに、報告者の方に加筆、修正をしていただいたものです。

研究会の内容は、わが国とドイツの総選挙の結果について報告後、さまざまな議論がなされました。日本では、自民党の圧勝に終わり、ドイツでは首相の交代という結末となりました。ドイツでも総選挙に対するメディアの影響が大きかったようですが、わが国でも同様の傾向があったと思います。今後の選挙においてもメディアの影響は大きいといえます。その際に、偏った報道がされないことも当然ではありますが、そのような報道に左右されないよう、有権者も選挙への認識をたかめるとともに、政治に対して正しい知識を身につける必要があると思います。本誌では、そのための情報提供を今後も行っていきたいと思います。

また、本号では紙幅の都合上、毎号行っておりました資料解説と地方自治に関するトピックスを省略させていただきました。次号からは掲載いたしますので、ご了承ください。 (高山輝雄)

2006年2月20日

自治研かながわ月報第92号(2006年2月号, 通算156号)

発行所	社団法人 神奈川県地方自治研究センター
発行人	横山桂次 編集人 勝島行正 定価1部 500円
〒232-0022	横浜市南区高根町1-3 神奈川県地域労働文化会館4F
	☎045(251)9721(代表) FAX 045(251)3199
	http://kjk.gpn.co.jp/ E-mail:kjk@gpn.co.jp
振替口座	中央労働金庫横浜支店 1195174 横浜銀行 横浜市庁支店 0709629

会員になるには

1. 誰でも会員になれます。
2. 申込書は自治研センター事務局にあります。会費は個人会員月1,000円、賛助会員月600円のどちらかを選び、1年分をそえてお申し込みください。
3. 詳細は自治研センター事務局
☎045 (251) 9721へご連絡ください。

会員の特典

1. 自治研センターの「自治研かながわ月報」が送られます。
2. 「月刊自治研」(自治労本部自治研推進委員会発行・A 5版・120～150ページ定価650円)が毎月無料で購読できます。
3. 自治研センターの資料集が活用でき、調査研究会などに参加できます。